

30360 ✓

教科書文庫

3
920
52-1902
20000 67395

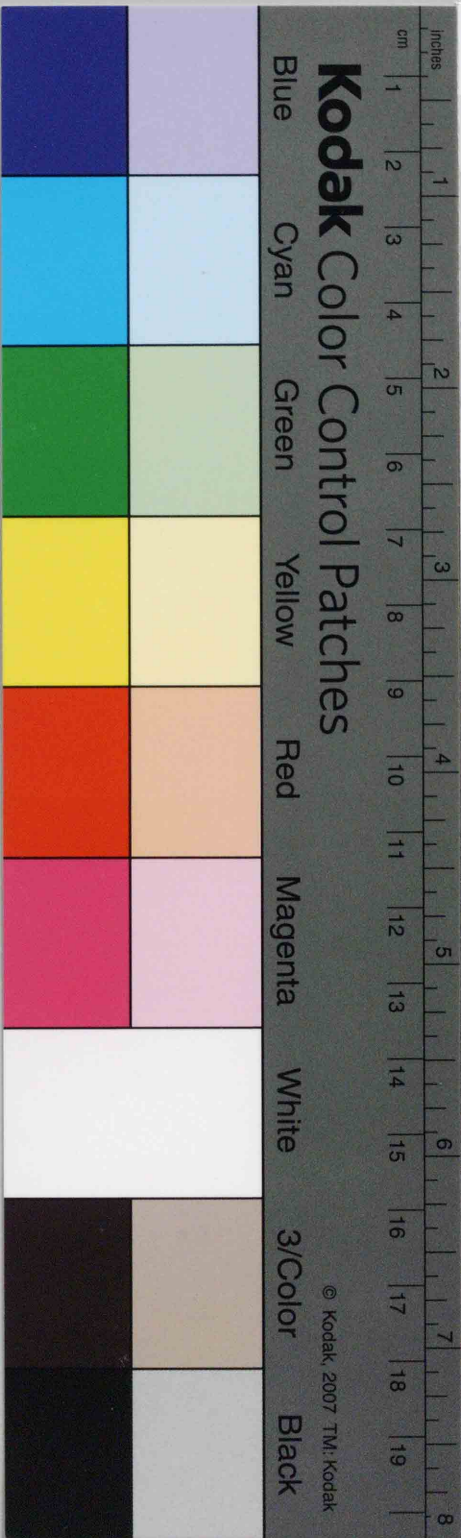
Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

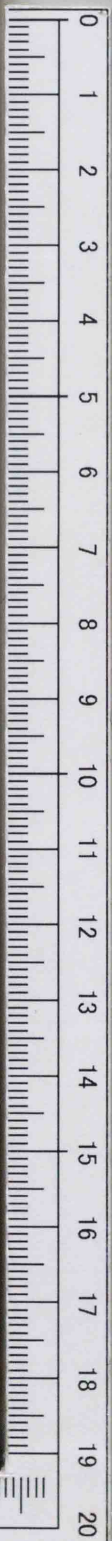


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches



© Kodak, 2007 TM: Kodak



4b
930
明41

裁縫教科書

谷田部順子著  
上卷



4b  
930  
明41

資料室

明治三十五年七月廿二日  
文部省檢定濟

谷田部順子著  
上卷



# 裁縫教科書

東京

目黒書房  
成美堂  
合梓

## 裁縫教科書上卷

### 緒言

一近時女子教育の發達大に其歩を進め各地競ふて女子師範學校高等女學校或は技藝學校等の設け日に増加するに當り是等諸學校に使用する教科書の必要なる云ふまでもなき事なり是に於てか學者大家に於ては各其専門の科に就き良教科書を編著し後進を指導せらるゝと雖も獨り此種の學校に於て最必要なる裁縫教科書の適當なるもの未だ世に顯はれざるは予の甚だ遺憾とする處なり因りて數年來教授せし事を書き綴り是等學校の教科書に充てんと欲す聊か斯道に裨益する所あらば望外

の幸なり

一本書は文部省教則の趣旨に基き單に衣服の製作のみならず洗濯補綴保存法等の細事に至るまで凡そ女子として齊家の道に必要な事はすべてこれを掲けたり

明治三十三年十月

著者識す

### 裁縫教科書上巻目次

第一章	總論	一頁
第二章	運針	四
第三章	本裁單衣女物	五
第一	部分縫	五
第二	裁ち方積り方	一三
第三	普通仕立上寸法	一七
第四	標附け方	一八
第五	縫ひ方順序	二〇
第四章	本裁單衣男物	二一
第一	部分縫	二一
第二	裁ち方積り方	二五

第三章	普通仕立上寸法	二六
第四章	標附け方	二六
第五章	縫ひ方順序	二八
第五章	本裁裕女物	二九
第一章	部分縫	二九
第二章	裁ち方積り方裏付廻し附	三三
第三章	標附け方	三六
第四章	縫ひ方順序	三八
第六章	本裁綿入女物	四〇
第一章	部分縫	四〇
第二章	標附け方	四五
第三章	縫ひ方順序	四五

第七章	小供帯仕立方	五〇
第八章	普通染色の名稱	五三
第九章	普通織物の名稱	五四
第一章	木綿類	五五
第二章	麻類	五五
第三章	絹布類	五五
第四章	交織類	五五
第五章	毛布類	五六
第十章	補綴法綿布類	五六
第一章	接ぎ方	五七
第二章	継ぎ方	五八
第十一章	本裁裕男物	六一

第一	部分縫	六一
第二	裏地裁ち方	六二
第三	標附け方	六四
第四	縫ひ方順序	六五
第十二章	本裁綿入仕立方男物	六七
第十三章	洗濯及び張物の仕方	六七
第一	洗濯	六八
第二	張物	七四
第十四章	腹合帯仕立方	七六
第十五章	片面物三つ身并中幅大幅物にて 裁ち方	七八
第一	片面物にて三つ身の裁ち方	七八

第二	中幅物にて 裁ち方	八〇
第三	大幅物にて 裁ち方	八〇
第十六章	本裁綿入羽織女物	九六
第一	部分縫	九六
第二	裁ち方積り方	九九
第三	仕立上寸法	一〇一
第四	標附け方	一〇二
第五	縫ひ方順序	一〇五
第十七章	本裁袷羽織男物	一〇八
第一	部分縫	一〇八
第二	裁ち方積り方	一一〇
第三	仕立上寸法	一一〇

裁縫教科書上卷目次終

第四	標附け方	一一一
第五	縫ひ方順序	一一一
第十八章	本裁綿入羽織仕立方男物	一一四
第十九章	袖無綿入羽織	一一四
第一	裁ち方	一一四
第二	仕立上寸法	一一六
第三	標附け方	一一六
第四	縫ひ方順序	一一七
第二十章	補綴法絹布類 毛布類	一一八
應用問題之部		一一一
答之部		一二六

裁縫教科書上卷

谷田部順子著

第一章 總論

裁縫は女子の修むべき業務中最も大切なるわざにして古より婦工中の重きものに數へたりこれ其技の巧みなると然らざるとは家事を整理する上に於て少からざる影響あるものなればなりされば身分の高下貧富の如何にかゝはらず凡そ女子として此世に生れたらん人々は必ずこれを學ばざるべからず縦令富貴なる人にして自ら手を下すの

用なしとするも其指揮監督は決して他に委ねべきものに  
あらず然らざれば意外の不経済となり或は他のなせる業  
の良否をも見分くること能はずして測らざる耻辱をも招  
くことあるべし

現今用ふる所の普通衣服を大別して其名稱を擧ぐれば襦  
袢單衣袷綿入帶羽織袴被布合羽半天股引しやつすぼん下  
等あり又衣被料として用ふる者にも木綿絹麻毛織等の種  
類ありて各裁縫の方法及び取扱の注意を異にすさればこ  
れを學ぶものは是等各種衣服の裁縫に涉獵すべきは勿論  
なるべく種々異なる地質によりて其特殊の取扱方をも心  
得ざるべからず縫ひ方の難易は其種類に於けるよりも寧  
ろ地質の如何にあるものなり

運針は縫ひ方の基礎をなすものにして衣服の各部は皆此  
運針によりてなるものなれば其巧みなると然らざるとは  
大に衣服仕立上の良否及び遅速に關すされば最初に於て  
充分練習すべきは固より稍上達の後と雖も全く之を廢す  
べからずこれ手指の運用を鈍からしむるに至る恐れあれ  
ばなり

衣被料として用ふるものは其地質の異なるによりて丈幅等  
に長短廣狹あり又兩面片面の別ありされば是等各種のも  
のに就きてよく其積り方裁ち方等を學ばざるべからず又  
數枚の裁合せに至りては頗る工夫を要するものにして其  
巧拙は大に費用及び外形の如何に關すされば普通衣服の  
裁ち方積り方を了得せる後は更に進みて成る可く各種の

布帛に就き充分其工夫に習はざるべからずこれ衣服調製に關して缺くべからざることにして即ち亦裁縫學習上の要件なりとす

### 第二章 運針

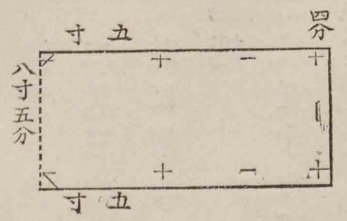
運針は素縫、本縫(直線縫、斜線縫等)にかゝはらず能く手指を練習して良巧迅速に縫ひ上げんことを勉むるにありて此目的を達せんには姿勢を正しく保ちて反覆練習するを肝要なりとす

注意 運針并に衣服各種の部分縫を練習する爲め用ふる所の用布は縞并に無地木綿並幅二尺五寸のもの各一枚と半幅二尺三寸のもの二枚と無地四つ割幅一尺八寸のもの二枚とす

### 第三章 本裁單衣 女物

#### 第一部分縫

##### 一、袖の縫ひ方



標附け方 二尺五寸の運針用布一枚を取り表を中にして横に二つに折り上圖の如く折り目を左にして正しく板上に置き山(二ヶ所)丈(三ヶ所)袖口袖附袖幅の標を附くべし 但し袖下の縫代は四分として標すべし

縫ひ方 表を出し一分の縫代にて袖下を縫ひ引き返して裏を出し右袖は袖下の方より左袖は袖口の方より縫ひ始めよく系扱きをなし袖口は抄ひ留に袖下は返し留



にして五厘の着せにて手前の方に折りを付け(縦を先きに横を後にす)袂の角を留め(こま結)次に袖口を三分の針目にて三つ折縮になすべし

注意 最初は二尺五寸の運針用布にて拵へ次に半幅二尺三寸のものにて練習し之れは解かずして袖附の時に用ふべし

二、脇縫

二尺五寸の運針用布二枚を取り衿肩明二寸三分を除き並の縫代にて割りはぎをなし後前の片身頃と見做すべし

標附け方 表を中にして二つに折り衿肩を左に脊を手前に後身を上になして正しく下に置き山丈袖附身の八

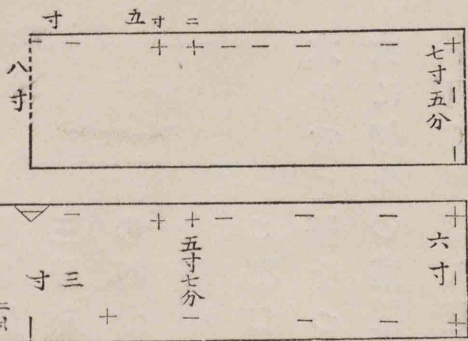
つ口及び後幅肩幅の標を付け次に後身を左にひらき衿

下り前幅(下より三四寸の間真直にす)抱幅の標を附くべし 但し裾掛は五分の縫代として標すべし

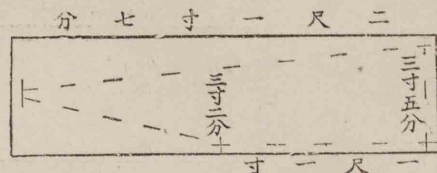
縫ひ方 前布を見て標の通り右の身頃は裾口より左の身頃は脇明の標より縫ひ始め能く糸扱きをなして脇明の處は抄ひ留に裾口の所は二寸程返針をなし前幅の方に折り縫ひ込みを開きて割躰をかけ次に之れを表に綴

三、衿の附け方

ち附く 但し針目は割躰を七八分綴を一寸二三分こす



標附け方(棒衽)半幅二尺三寸の布一枚を取り表を下に衽



先を左に衽下(布のかきめの方)を手前にして板上に置き丈衽下幅合襖幅の標を附け(衽下は四分の縮代にて真直に前身に附く方は合襖にて三分をつむ)劔先は前身頃に附く方を出来上幅の四分一を曲くるものとして標を附け此處と合襖幅の所にて定木をあて標をつけ又合襖幅と裾口幅(下より二三寸の間真直)この所にも定木を當て標をつく

次に劔先の處幅一分をあけ(着せとなるべき分)これより衽下の標まで斜に定木を置き衽附の標を附く

標附け方(鈎衽) 棒衽の如く丈衽下幅合襖幅の標を附け

四、裾掛



(合襖幅は衽下の方にて三分をつむ)身頃に附く方は衽丈の標の三寸程手前まで真直に之れより劔先の所まで二分を曲け次に劔先の處一分をあけて衽下の處まで斜に標す

縫ひ方 衽下を四分の針目にて三つ折縮にし前幅及び衽に標の通り折をつけ丈を揃へて所々に待針をなし衽の方を見て上前は劔先より下前は裾口より縫ひ始め能く糸扱きをなして劔先の所は縫ひ込みの方に斜に一寸程裾口の處は二寸程返針をなし衽の方に折りをつけ脇縫の如く縫ひ込みを綴ち附く

丈標の通り身頃及び衽に折りを附け更にこれを二つに

折り衿下の角は先づ縦の方より斜に折り次に横即ち丈を折りて其角を正しく衿下の拵け目に合せ所々に待針をなし裾口を手前にして裏を見て上前即ち右手の方より拵け始め中を渡す針目は五分表に出づる針目は極めて小針にして順次左へ拵け行くなりかくて衿附脇縫等の縫目に至らば必ず返したる方の折り目に接近して即ち着せの上上小き針目を表に出すべし又衿下の三角に折りたる所は其合せたる角の所に針目を出して能く留め置くべし

#### 五、衿の附け方拵け方

四つ割幅一尺八寸の布二枚はぎ裏の方へ折を返し隠躰をかけ衿裏を附けたるものご見做すべし

#### 標の附け方 山丈及び縫代の標を附く

但し丈は出来上りの衿肩明と衿下りと劔先より衿下の標までの長さを加へたるものなり又衿先には成る可く五分程の縫ひ込みを置くべし

縫ひ方 衿の山標と脊縫とを合せ待針をなし衿肩明の處は衿の方を凡一分程弛め待針をなし次に劔先并に衿附の處々に待針をなし劔先より三寸程下りて下は衿をやゝ張り目にす衿の方を見て下前衿下の標より順次に附け上り劔先の處に至らば小く返針をなし又衿肩の處は極めて小針に縫ひ廻はし脊筋の所に至らば亦返針をなし上前も同じ仕方にて衿を附け下くるなり衿先の留めは左右共に抄ひ留をして返針をなすべし

次に衿幅(一寸四分)を度り衿先を縫ひ留の處より一分縫代によりたる方一分の着せにて裏の方に返し裏の脊線せきせん衿肩明劔先及び其中間に待針をなし衿の裏を見て下前の方より順次に縮けつくべし 但し針目は裏衿の方を五分身頃を三分程抄ふべし

六、袖の附け方

袖幅并に肩幅に標の通り折りをつけ袖の内外に注意して山標を合せ待針をなし身頃を外に袖を中にして袖の方を見て縫ひ縫ひ始め及び縫ひ終りは抄ひ留をして返針をなし山の處二三寸の間は並の針目より稍小針に縫ひ折り目を袖の方へ返し身頃の縫ひ込みを斜に開きて割麩をなし次に袖并に身の八つ口を耳縮けすべし

第二 裁ち方積り方

裁ち方は標附け方縫ひ方等と異り一度誤まればまた改むること能はざるものなればよく熟考して誤りなきを認めたる上ならでは缺を入れるべからずさて其方法は先つ裁つべき反物を解き總尺を計り糸抜け汚點しみ等を檢し表を中にして織末より巻き積り方の計算をなし次に巻きたる反物を己れの右手の方に置き順次左へ延べ寸法通り袖身頃衿衿と裁ち切るべし

但し裁ち切る前には裁ち方圖解第二圖の如く袖 丈四つ身丈四つ衿丈二つを折り計算の誤りなきを確かめたる上切り放つべし

一、棒衿裁ち方 用布 二丈八尺八寸

普通裁ち切り寸法

袖丈 一尺六寸

身丈 三尺九寸

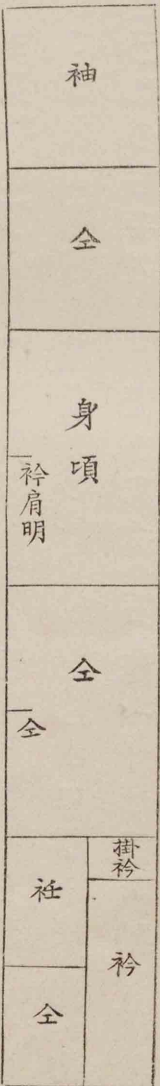
衿下り 五寸

衿肩明 二寸五分

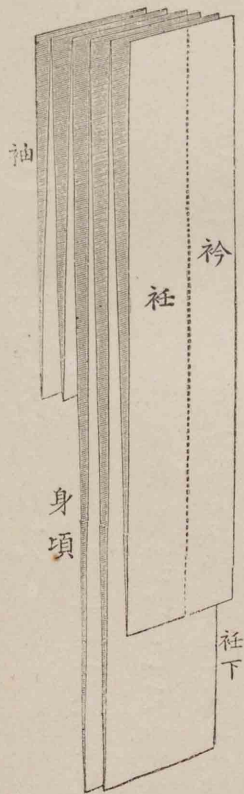
衿丈 四尺七寸

衿幅 四寸八分

裁ち方圖



第一圖



第二圖

積り方

寸法を知りて總丈を求むる法

$$\text{袖丈} \times 4 + \text{身丈} \times 4 + (\text{身丈} - \text{衿下}) \times 2 = \text{總丈}$$

總丈及び袖丈を知りて身の丈を求むる法

$$(\text{總丈} - \text{袖丈} \times 4 + \text{衿下} \times 2) \div 6 = \text{身丈}$$

總丈及び身の丈を知りて袖丈を求むる法

$$\frac{\text{總丈} - (\text{身丈} \times 4 + \text{衿丈} \times 2)}{4} = \text{袖丈}$$

二、鉤衿裁ち方 用布 二丈八尺

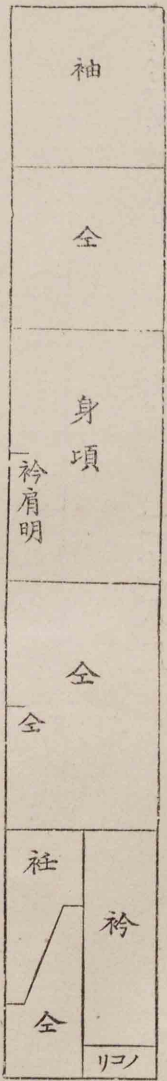
普通裁ち切り寸法

袖丈 一尺六寸 身丈 三尺九寸六分

衿下り 四寸五分 衿下 二尺二寸五分

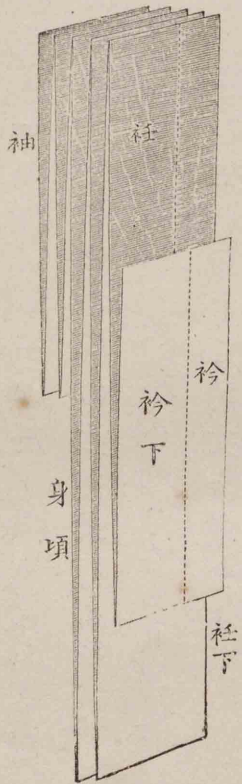
裁ち方圖

衿肩明	二寸五分	衿幅	四寸八分
衿丈	四尺八寸	鈎の切り込み	七分



第一圖

積り方  
寸法を知りて總丈を求むる法



第二圖

袖丈 × 4 + 身丈 × 4 + (身丈 - 衿下リ) + 衿下 = 總丈

總丈及び袖丈を知りて身の丈を求むる法

總丈 - (袖丈 × 4 + (衿下 - 衿下リ)) = 身丈

總丈及び身の丈を知りて袖丈を求むる法

總丈 - (身丈 × 5 - 衿下リ + 衿下) = 袖丈

### 第三 普通仕立上寸法

袖丈	一尺五寸五分	袖幅	八寸五分
袖口明	六寸五分	袖附	六寸五分
身丈	いっばい	後幅	七寸五分
前幅	六寸	抱幅	五寸五分
衿幅	四寸	衿下リ	六寸

合襖幅	三寸五分	衿肩明	二寸三分
衿幅	三寸	肩幅	八寸
行	一尺六寸五分	衿下	一尺九寸

第四 標附け方

一、袖 表を中にして真中より二つに折り二枚重ね折り目を左にして下に置き前に示せる寸法により部分縫の通り山、丈、口明、附幅の標を附くべし

二、身頃 表を中にして二枚合せ衿肩より二つに折り後身を上に脊を手前に衿肩を左にして下に置き前に示せる寸法により部分縫の通り山、丈、袖附、身の入つ口、後幅、肩幅及び其中間に標を附け次に後身頃を左に開き前身頃に衿下り前幅抱幅の標を附くべし

三、衿 表を中にして二枚揃へ劔先を左に衿下を手前になして下に置き前に示せる寸法により部分縫の通り丈、衿下幅、合襖幅、衿附、衿附の標を附くべし

但し衿丈は身丈より衿下りを減き之れに一分を加へたるものとす

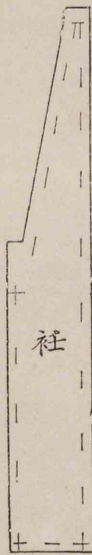
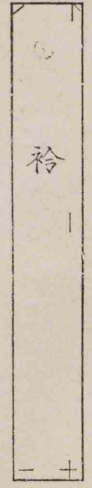
四、衿 表を中に真中より二つに折り折り目を左になして下に置き前に示せる寸法により山、丈、縫代の標を附くべし 但し丈の計算は部分縫の時に同じ

注意 右に掲げたるは普通寸法の標準を示したるものなれども人々體格の異ると使用の場合とによりて多少の相異なるものなれば實物の仕立方に於ては各其適當なる寸法によるべし以下凡て同じ心得なり



後身頃

前身頃



### 第五 縫ひ方順序

一袖 部分縫の通り表を出して袖下を縫ひ更に裏を出して右袖は袖下より左袖は袖口の方より縫ひ始めよく糸留をなし袖口を三つ折り縮けにすべし

二身頃及び衿 衿肩明及衿の鉤をかゞり衿下を三つ折

縮けになし肩當尻當の裁ち目を伏せ脊を縫ひ二寸程返針をなし次に肩當を付け此糸を切らすして再び脊を縫

ひ尻當を付け(下方を除き左右上方を表に縮け附く)部分縫の通り兩脇を縫ひ割躰をかけ縫ひ込みを綴ち附け次に

兩方の衿をつけ亦縫ひ込みを綴ち附け裾掛をなし衿を附け三つ衿を入れ衿先を縫ひ縮け附くべし

三袖附 部分縫の通り袖を附け袖八つ及び身八つを耳縮けすべし

### 第四章 本裁單衣男物

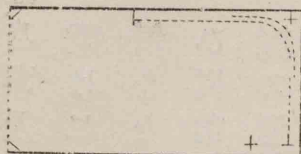
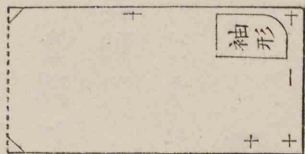
#### 第一 部分縫

一袖の縫ひ方



標附け方

二尺五寸の運針用布一枚を取り表を中にし  
て横に二つに折り山丈、口明、人形幅の標を附け  
次に袖形を袂の處に當て丸みの標を附くべし  
縫ひ方 表を出し一分の縫代にて袖下を縫ひ  
引き返して裏を出し右袖は袖下の方より左袖  
は袖口の方より縫ひ始め丸みの所に至らば一  
針返して之れより小針に縫ひ此處縫ひ終らば  
針を抜き稍布を締め置く程に軽く糸扱きをな  
し亦一針返しこれより普通の針目にて縫ひ行  
くべし次に丸みの一分程手前より縫代の方へ  
一分五厘程離して小針に縫ひ五厘の着せにて  
全體に折を附け丸みの始めと終りとに待針を

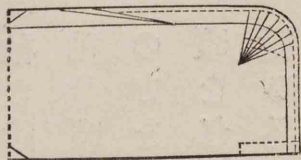
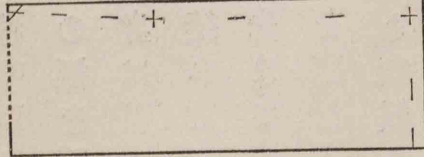


なし今縫ひたる糸を引きて弛みを締め襷を奇  
麗に整へ前に縫ひたる所より尙一分五厘程放  
して針を通し襷を纏め次に縫ひ込みの末の兩  
端に糸を懸けて襷の動かぬ様に留め置くべし  
二、揚の仕方

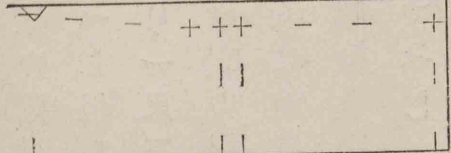
二尺五寸の運針用布二枚を取り衿  
肩明二寸五分を残し二分五厘の縫  
代にて接ぎ合せ片身頃と見做すべ  
し

標附け方 表を中にして衿肩明の  
處より二つに折り後身を上にして折  
目を左に脊を手前にして山丈袖附

分九寸九



分四寸一尺一 手



後幅、肩幅の標を附け次に衿肩を五分後身の方へ越し揚の標を附くべし但し揚の高さは普通の丈にありては後身は肩山より一尺三寸五分前身は一尺四寸五分とす縫ひ方 後身頃の揚の標を合せ待針をなし幅標の一分先まで縫ひ次に前身の揚を縫ひ何れも裾口の方へ折りを返し次に脇縫をなし脇幅の縫ひ込みを揚の處まで開き割駈をなすべし

三、袖の附け方

袖身頃共に標の通り折をつけ山標を合せ待針をなし袖の方を稍弛めになして脇明と合せ袖下の處は袖にて身頃を包み四つ留をなし此系にて直ちに袖をつけ(身頃の縫ひ込みを折り)縫ひ終りは返針をなすべし

第二 裁ち方積り方

裁ち方に就き心得べき事柄は前章第二本裁單衣女物裁ち方に於て述べたると同じきを以て此に記せず

一、棒衿裁ち方 用布 二丈八尺

普通裁ち切り寸法

袖丈	一尺四寸五分	身丈	三尺八寸五分
衿下り	四寸五分	衿肩明	二寸五分
衿丈	四尺六寸	衿幅	四寸八分

二、鉤衿裁ち方 用布 二丈七尺

普通裁ち切り寸法

袖丈	一尺四寸五分	身丈	三尺八寸五分
衿下り	四寸	衿肩明	二寸五分
衿丈	四尺六寸	衿下	二尺三寸五分

衿幅 四寸八分 但衿縮入は男女共五寸 鉤の切り込み 七分

第三 普通仕立上寸法

袖丈 一尺四寸 袖幅 八寸八分

袖口明 七寸五分 袖附 一尺二寸

人形 二寸

身丈 三尺六寸五分 後幅 八寸

肩幅 八寸七分 前幅 七寸

抱幅 六寸三分 衿幅 四寸

衿下り 五寸五分 合襖 三寸六分

衿肩明 二寸三分 衿幅 一寸六分

行 一尺七寸五分 衿下 一尺七寸五分

第四 標附け方

一、袖 表を中にして真中より二つに折り二枚重ね正しく

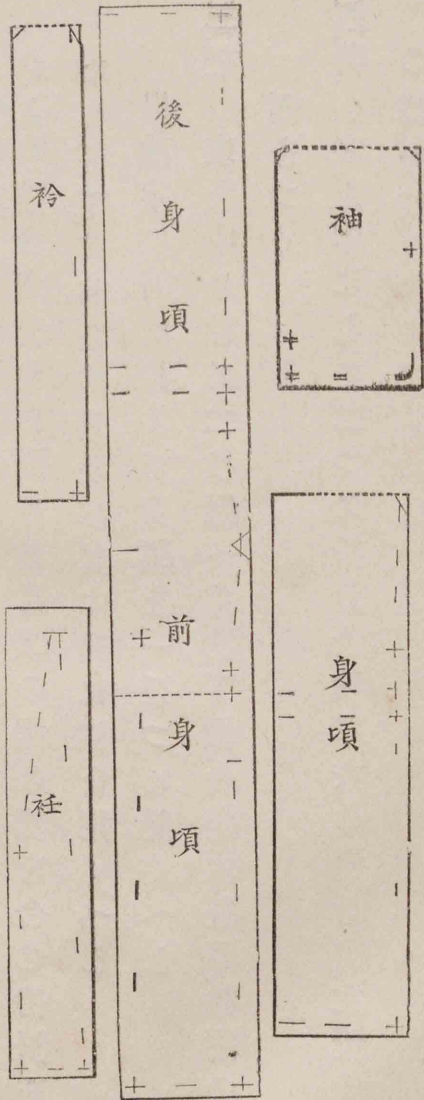
揃へて下に置き寸法通り山丈、口明、人形、幅及び丸みの標を附くべし

二、身頃 表を中にして二枚合せ衿肩明より二つに折り後身を上にして四枚揃へ部分縫の通り山丈、袖附、後幅、肩幅の標を附け次に衿肩を五分後身に越し揚の標をなしそれより後身頃を左に開き前身頃の揚の標を合せ待針をなし衿下り前幅抱幅及び其中間に標を附くべし

但袖附の明は袖より身頃を一分つめ置くべし

三、衿 表を中にして二枚揃へ丈、衿下幅、合襖幅、衿附、衿附の標をつく

四、衿 表を中にして二つに折り女物單衣の通り山丈、縫代の標をつく



第五 縫ひ方順序

一、袖 部分縫の通り袖下を縫ひ裏を出し内袖を見て左袖は袖口より右袖は人形より縫ひ始め袖口を抄ひ留めになし内袖の方に折りを附け袂の丸みを拵へ袖口明を三つ折縮けになすべし

二、身頃及衿 衿肩明を膝り肩當尻當の裁ち目を伏せ衿下を三つ折り縮になし脊を縫ひ女物の通り肩當を附け後前の揚をなし尻當を附け兩脇を縫ひ割躰をなし縫ひ込みを綴ち衿を附け亦縫ひ込みを綴ち裾掛けをなし次に衿の表裏にて身頃を挟み三枚共に縫ひ(劔先は一針抜き)縫ひ始め及び縫ひ終りを抄ひ留めになし衿先を縫ひ裏の方に返し幅を極め折りを附け二つに折りて所々に待針をなし女物の如く縮け袖を附け上衿をかくべし

第五章 本裁衿 女物

第一 部分縫

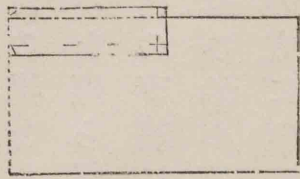
一、袖縫ひ方

二尺五寸の運針用布二枚を取り無地なる方に袖口を掛

け表裏の袖と見做すべし  
 標附け方 表袖の表を中にして二つに折り單衣の通り  
 正しく下に置き山丈口明附幅の標を附け次に袖口布を  
 裏の上に載せ表に準じて標すべし

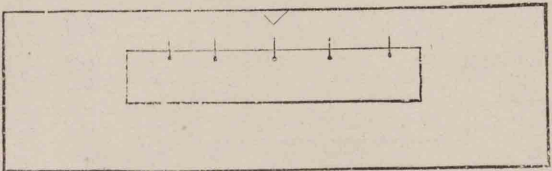
但し裏袖は口明にて五厘八つ口にて一分をつむ

第 壹 圖

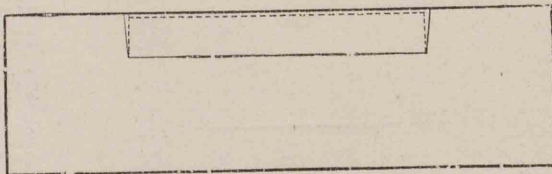


袖口掛け方 裏袖及び袖口布の表を出して  
 横に二つに折り折り目を左にして正しく板  
 上に置き袖口布を一分向へ出して山及び縫  
 代の標を附くべし(第壹圖)  
 次に標の通り折りを附け山標を合せて待針  
 をなし(第二圖)最初は留結にて一針返して縫ひ始め終り  
 は一針返して打留めをなし次に袖口の方へ折りを附け

第 二 圖



三 圖



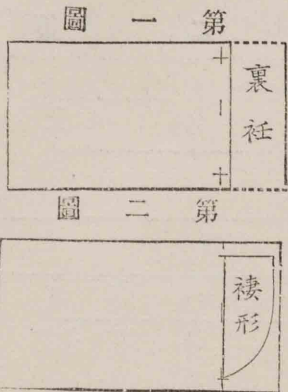
平躰をかけ兩端は袖口丈の標の五  
 厘外に合せ待針をなしして締め置く  
 べし  
 次に袖口先の處になるべく袖口と  
 同色の細き糸にて縫ひ躰をなすべ  
 し(第三圖)

縫ひ方 裏袖の縫代を幅五厘ひき  
 て表の山標に合せ待針をなし次に  
 丈五厘張りて待針をなし口明を一  
 針抜きに縫ひ表の方へ折りを附け袖口下に四つ留めを  
 なし其糸にて袖口布のある所まで返針に四つ縫ひにし  
 夫れより袖下の幅標より二三寸手前まで縫ひ廻し此處

より裏袖を除き表袖のみを縫ひ次に裏の残りを幅標の一分先きまで縫ひ袖口及び袖下に襷をかく  
次に表裏の八つ口を合せ待針をなし袖下の縫目より兩方に縫ひ上げ襷をかく

二、襷縫ひ方

二尺五寸の運針用布一枚を取り縦に二つに折りなみの縫代にて其折りたる處を合せ縫ひにし左右の衽と見做すべし  
標附け方 今縫ひたる布を横に二つに折り下になりたる方を裏として衽の二倍即ち四分程出し置き幅及表裾の縫代を極め(第壹圖)次に表を除き裏のみを出し今附け



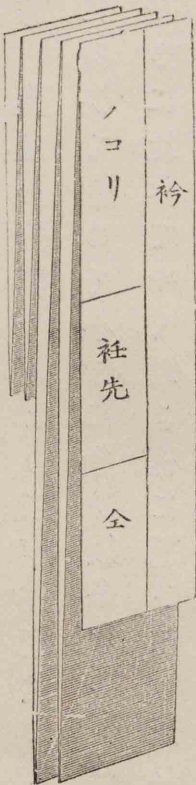
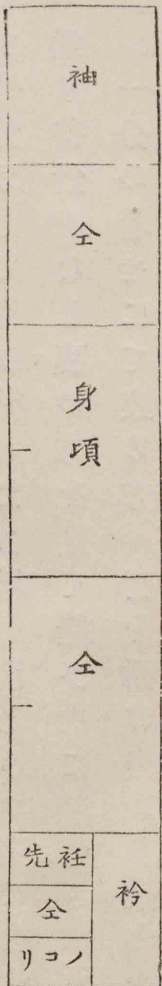
たる筥標の所へ襷形の眞直なる方を合せ形の通りに標を附くべし(第二圖)

縫ひ方 裏衽を襷形の標より二厘程縫代によりたる方を形に做ひて極めて小針に縫ひ(襷糸を二本にして用ふ)表の長さに比べてやゝ短き程に縫ひ縮め衽の角を充分に引き伸ばして縫ひ縮めたる皺を消しさて表に合せ標の通り待針をなし裏の方を見て縫ひ次に襷先きは五厘他は一分の着せにて表の方へ折を附け裏より鍔をかけ五六分位の針目にて着せの折り目より一分五厘ほどはなれたる所に表を見て隠襷をなし衿下を縫ふべし

第二 裁ち方積り方 裏裾廻し附

表は本裁單衣に同じ

裏の裁ち切り寸法は表に準じて定むべきものなれば此に  
 は裁ち方の圖のみを掲ぐ 但し身の丈は表の丈より袷の  
 二倍に胴繼の縫代を加へたるだけ長くすべし  
 一、胴裏裁ち方



二、裾廻し裁ち方  
 普通裁ち切り寸法

用布 七尺五寸

裾丈 一尺二寸 衿裾丈 二尺三寸

衿先き 四寸



三、積り方

表及び胴裏の總丈を知りて裾廻しの總丈を求むる法  
 $表總丈 - 胴裏總丈 + 衿 \times 10 + 縫代凡五寸 = 裾廻し丈$   
 表及び裾廻しの總丈を知りて胴裏の丈を求むる法  
 $表總丈 - 裾廻し丈 + 衿 \times 10 + 縫代凡五寸 = 胴裏總丈$   
 表及び裾廻しの寸法を知りて胴裏丈を求むる法  
 $衿丈 \times 4 + (表身丈 - 裾丈) \times 4 + (表衿丈 - 衿先丈)$

十 衽丈×10+縫代凡五寸=胴裏丈

第三 標附け方

一、袖 表袖の表を中にして二枚揃へ横に二つに折り部分縫の如く寸法通り山丈、口明、附幅の標を附け次に裏袖も表と同じく標をつく 但し丈幅のひき方は部分縫に同じ

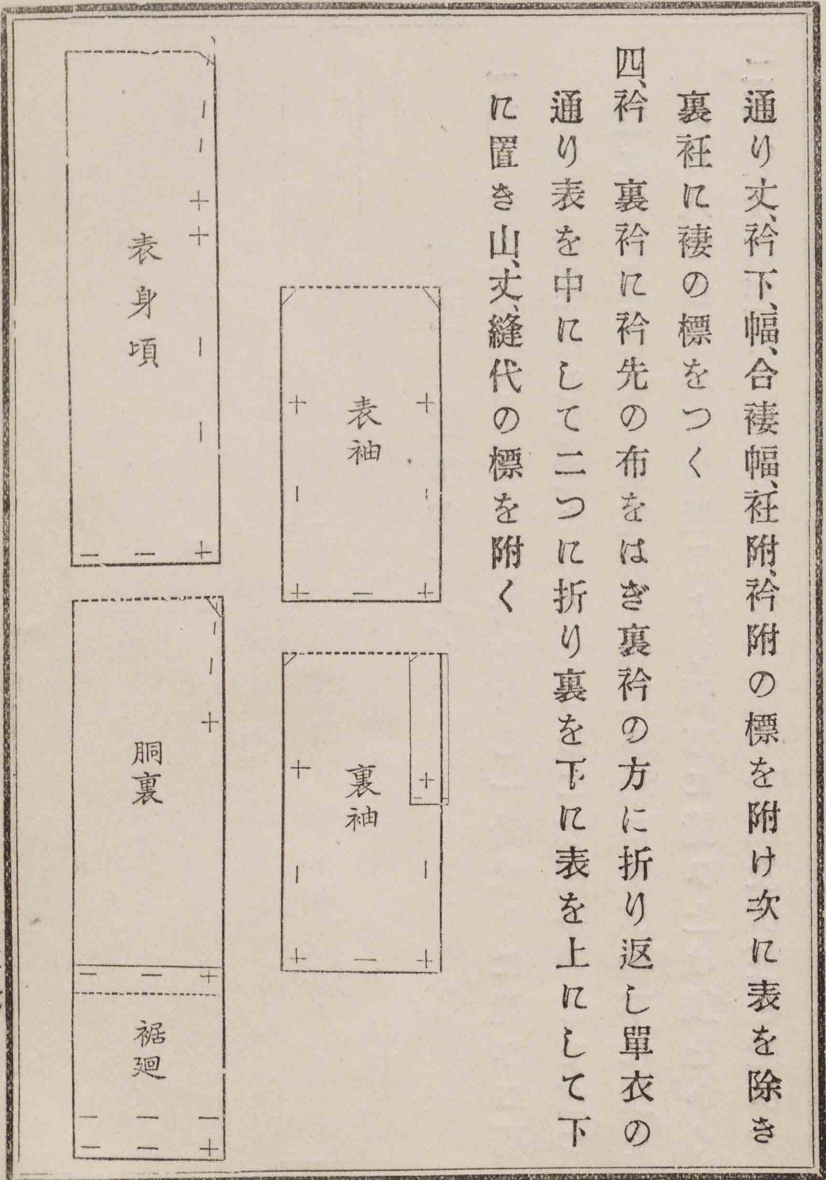
二、身頃 單衣の通り表身頃に標を附け次に胴裏の上に裾廻しを置き裾接ぎの標を附け表に準じて山丈袖附身の八つ口後幅、肩幅の標を附くべし

但し裏丈は表丈より衽の二倍を長くすべし

三、衽 裏の衽先きをはぎ衽先の方に折り返し衽の二倍出として表と合せ裏を下に表を上にして板上に置き單衣の

二 通り丈、衽下幅、合襖幅、衽附、衽附の標を附け次に表を除き裏衽に襖の標をつく

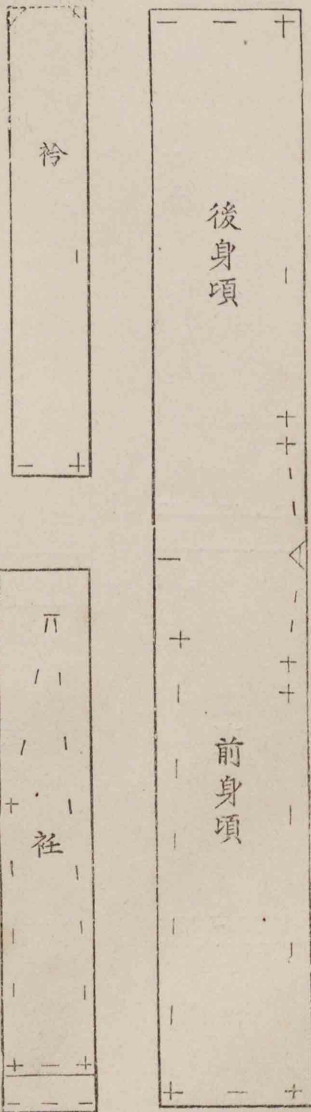
四、衽 裏衽に衽先の布をはぎ裏衽の方に折り返し單衣の通り表を中にして二つに折り裏を下に表を上にして下に置き山丈縫代の標を附く





後身頃

前身頃



### 第四 縫ひ方順序

一、袖 表裏の袖口を合せ待針をなし一針抜きに縫ひ口明を四つ留になし此處より八つ口の二寸程手前まで四つ縫になしそれより表裏別々に縫ひ袖口及び袖下に襷をかけ八つ口を袖下の縫目より兩方に縫ひ上げ襷をかく

二、身頃及び衽衿 標の通り表身頃の脊脇及び衽を縫ひ次

に裏身頃の胴と裾廻しとを一枚つゝ接き表に準して衽下り、前幅、抱幅の標を付け脊脇及び衽を縫ひ丈調をなし脇縫に割襷をかけ表を見て表裏の裾を合せ衽の處に隠襷をなし衽をきめ一分の着せにて全體に襷をかけ脊脇及び衽を綴ち脇明の處前身頃にて後身頃を挟み四つ留をなし身の八つ口及び衽下を縫ひ襷をかけ袖の山標及び附の標を身頃に合せ内外共に四つ留をなし表裏別々につけ次に衽附を綴ち衽の表裏にて身頃を挟み四つ縫になし(附け始め及び附け終りを抄ひ留に劔先二三寸の間を一針抜きにす)衽先を縫ひ(裏衽の幅をやゝ張りぬにす)裏へ返して縫代を綴ち幅をきめ裏衽を一分五厘程ひきて紬け裾に横綴をして仕上をなすべし

但し裾を合する時は後前の四裾は表を衽は裏を見て縫ふべし又横綴の針目は凡一寸位となし裏には一つ置きに出すべし

注意 袖の縫ひ方は前に説きたるものと異なる方法ありそは袖口を合せ四つ留をなしたる後袂の角まで縫ひ次に内外の八つ口を縫ひそれより内袖にて外袖を包み袖下を四つ縫になすなり之れは袖下の縫目内袖の方稍厚くなる嫌あれども時間を要すること少なきを以て粗末なるものには此仕方を用ふることあり

### 第六章 本縫綿入女物

#### 第一 部分縫

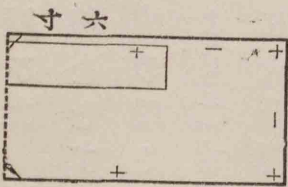
一、袖縫ひ方 二尺五寸の運針用布二枚を取り無地なる方

に袖口を掛け表裏の袖と見做すべし

標附け方 表袖の表を中にして二つに折り正しく下に置き山丈、口明、附幅の標を附け次に裏の上に袖口を載せ表に準じて標すべし

但し裏袖丈は表袖丈より五厘をつめ八つ口の處は更に一分をつむ又口明及び幅附を除くは五厘をつむ

袖口掛け方 袖口布は裏袖幅の廣きものには幅一分ひきて載せ狭きものには袖口下に持出布をつけそれより幅一分ひきて載せ縫代の標をつけ裕の時と同じ仕方にて掛くべし  
但し袖口の衽は二分出たすものとして其倍即ち四分程を表より廣くして標すべし



縫ひ方 標の通り表裏の袖を縫ひ躰をかけ袖口に含み綿をなす

綿の厚さは並の青梅綿凡三枚を重ね長さは口明の二倍より二寸程長くし最初先つ一寸幅のもの一枚を切り次に六分幅のもの二枚を切り木綿綿を切るには鋏を用ひすして手にてむしり取るべし其上に載せ左の食指を真中より稍向ふにあて順次に右手にて二つに折り其上を手にて能く壓へ綿の離れぬ様になし夫れより真中を袖の山標の處に合せ下方を掛針にて張り口明の五分程下の處より含み始め口明の處にて一針出し夫れより五分程先の處にて袖口襷たけ幅を出し亦此處を壓へ綿をゆるめに含ませつゝ一針置きに綿のみを抄ひ表には極め

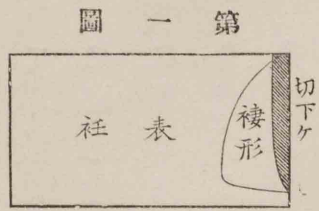
て小針に出して一針抜になし山標の一分程手前にて表に出し山の所は壓へすして向側も同様になすべし又表に出つる針目の隔たりは凡一寸二三分として豫め其數を見計らひ置くを良しとす  
夫れより表裏の山標を合せ寸法通り袖口襷を出して表を弛めに待針をなし釣り合を見て口明下に四つ留をなし此系にて直ちに袖口を三分程の針目にて縮け行き終らば口明下より袂の處まで綴ち置くべし 但し袖口の始め終り五六分の間は稍表を張りぬになし指頭にて程能く丸みを作り綿に通さぬ様注意して五厘程内を縮け行くべし  
次に八つ口に含み綿をなす其仕方は畧ぼ袖口に同じ綿

は一寸幅のもの一枚と五分幅のもの一枚とを重ねこれを二つに折りて用ふべし

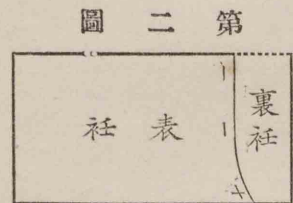
注意 綿入の袖口は褌と同じく衣服仕立方中の要所なれば種々の地質に就き充分練習して巧に縫上げんとを務むべし

### 二、褌縫ひ方

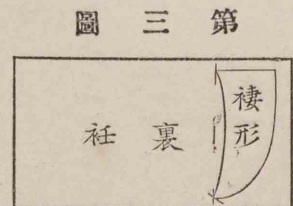
標附け方 半幅二尺三寸の布を二つに折りて裏表と見



第一圖



第二圖



第三圖

做し幅を當り表に褌形をあて切り下の標をつけ之れを繰り落し(第一圖次に裏を褌の二倍出して袴の通り裾口の

縫代及び褌形の標をつく(第二圖第三圖)但し表の切り下けは繰り落さずして所々斜に缺を入れ置ても可なり  
縫ひ方 袴と同じ仕方にて縫ひ隠躰をかけ綿を入れ能く褌先を拵へ袴下を縮け置くべし襷綿の幅は其大小によりて異れども三四分のものならば二寸五分及び二寸程のもの各一枚と一寸二三分のもの二枚とを重ね袖口綿の如く稍一方を狭く二つに折りて入るべし

### 第二 標附け方

一、袖 總べて部分縫に同じ

二、身頃及び袴袴 前章袴に同じ

### 第三 縫ひ方順序

一、袖 部分縫の通り裏袖に袖口を掛け表裏の袖を縫ひ躰

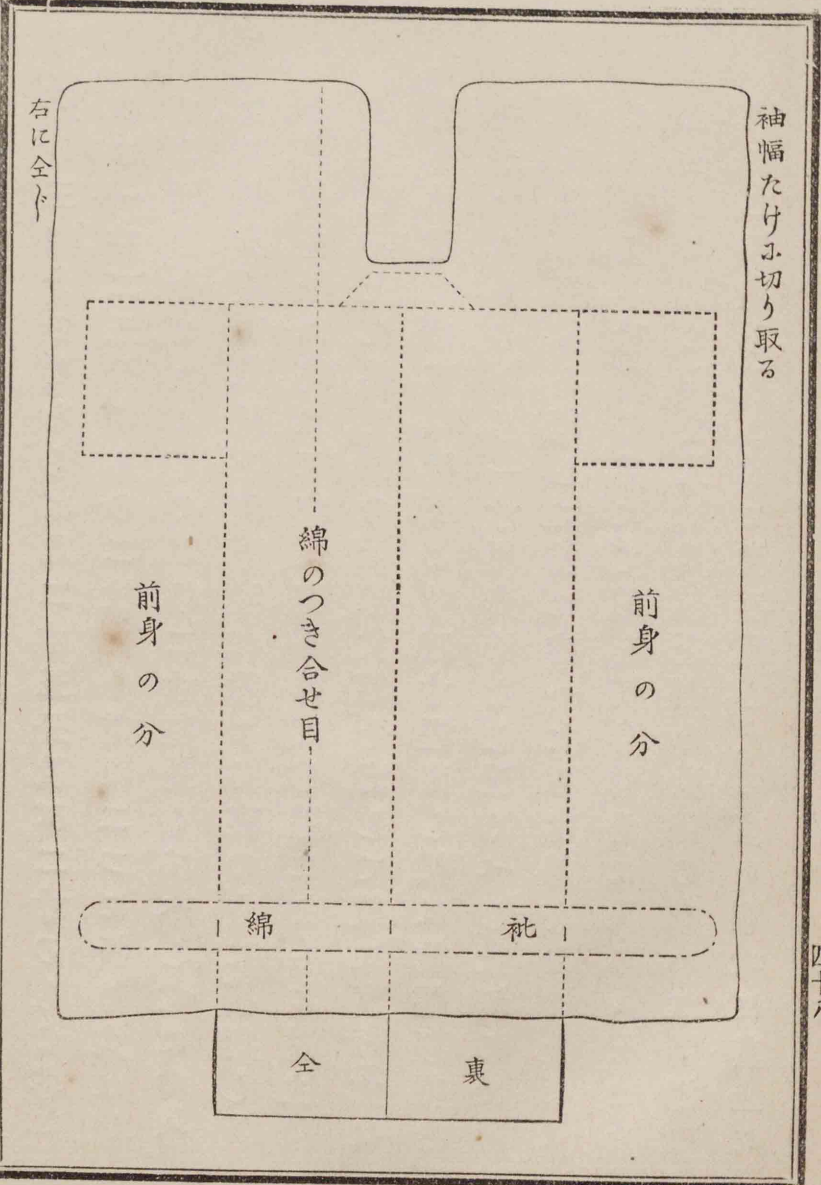
をかく

二、身頃及衽衿 表身頃の脊脇及び衽を縫ひ次に胴裏の脊及び脇を縫ひ割襷をかけ四裾をはき(脇縫は裾口の處にて五厘ばかり縫ひ込むべし)胴裏に附け折り目は胴の方へ返して(胴裏の縫ひ込み多きものは裾の方へ返すべし)襷をかけ衽下り、前幅、抱幅の標をなし衽をつけ丈調をなし表裏の脊脇及び衽に襷をかけ衿及び袖をつけ襷をかけ表を見て四裾を合せ次に裏を見て部分縫の通り左右の襷を揚げ隠襷をなし他の所は平襷をかけ袖口及び入つ口に含み綿をなし次に裏を返して夜具疊となし表を伸べて綿を入れる

三、綿の入れ方 先つ衽綿を作る其厚さ及び幅は部分縫の

通り三四分の衽ならば凡二寸五分及び二寸のもの各一枚と一寸二三分のもの二枚とを重ね二つに折り丈は總ての幅を合せたるものより二寸程長くすべし次に伸べたる後身頃に眞綿を引き袖は附より裏の方に折返し置き(眞綿を扱ふ時は丁寧に引き伸ばし線にならぬ様注意すべし)其上に綿を圖の如く丈幅を出して縦に廣げ(丈は上を袖附だけ下は衽標より四寸程出し幅は前幅衽幅を合せたるものより一寸程廣くなし置くべし)敷切れに附綿をなし裾綿を起して前に拵へたる衽綿をのせ上よりこれを包み袖附の處にて綿を切り前身に入るゝ分となし袖には別に綿を入れ眞綿を引き衽綿の動かぬ様裾の處に二尺指を置き前に疊み置きたる裏を順次に其上に

袖幅たけふ切り取る



延べ袖の残りたる所には別に綿を入れ脊線の片よらぬ  
 様能く表裏を合せ眞綿を引き残り置きたる綿を其上に  
 載せ丁寧につき合せ衿下の所は八分程の綿一枚置き下  
 の綿と共に二つに折り袂先を拵へ眞綿を引き表の袖口  
 明より手を入れて袖を半ば返し置き次に衿及び衿下の  
 處より手を入れて表をかぶせ能く引き延ばし次に片前  
 も同じ仕方にて入るべし斯くて全體入れ終らば肩の處  
 に兩手を入れ兩脇共に表裏の縫目を合せ充分引き伸ば  
 し次に袖及行を引き合はすべし

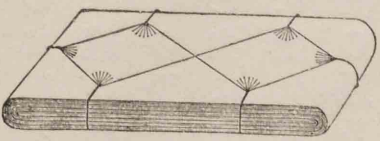
四、衿け方 綿を入れ終らば直ちに裾及び衿下に假綴をな  
 す其仕方は表を見て裾を己れの方に向け針にて能く綿  
 を引きよせ裾口より五分程上の處を躡にてあらく綴ち

五十一  
衿下は裏衿に綿を含み亦麩糸にてあらく綴ち置くべし  
次に部分縫の通り袖口八つ口及び衿下を緘け衿下は綴  
をなさざる故綿に通して緘け置くべし表裏の衿を綴ち  
衿附の始め終に四つ留をなし衿先を縫ひ裏に返して綴  
ち附け三つ衿を入れ裏衿幅を表衿幅より二分狭く折り  
を附け五厘張り一分五厘引きて表に合せ綿は總べて表  
に含み真中及び所々に待針をなし裏の方を見て三四分  
の針目にて緘け上げ次に脊脇衿に裾口より二尺程の高  
さ迄縦綴をなし(上前は表を見て下前は裏を見て何れも  
裾口の方より綴ち始むべし)次に衿を除きて横綴をなす

### 第七章 小供帯仕立方

布の伸び縮みを火熨斗或は鋺にてなほし(耳のつりたるも

五十二  
のは處々に鋏を入れ餘りのびたるものは耳のきしを小針  
に縫ひ程よく縮め置くべし)表を中にして幅を二つに折り  
布の歪まぬ様注意して真中一尺程つゝを置きて待針をな  
し次に合せたる耳の方處々に待針をなし右の端より順次  
に縫代淺く假綴をなし幅及兩端を度り真中帶巾を残して  
標の通り真直に縫ひ其仕方は右方を掛針にて張り針目一  
分位にして四五針縫ひて糸を抜き能く糸扱きをなし次に  
兩端を縫ひ横縦共に五厘の着せにて折をつけ(横を先に縦  
を後にす)鋺をかけ角を綴ち次に心拵しんぢゆをなす  
心となすべき木綿は大方耳厚くして且つ幅の異なるもの  
なれば先つ一方の耳を細く平に裁ち落し夫れより帶幅だけ  
に幅を計り其餘を又裁ち落すべし又二枚心の時は一枚は



帯幅たけ一枚は縫代の折り込みを減きて二枚綴ち附けさ  
 て表の布を取り輪の方を手前に縫ひ目を向ふにして板上  
 に置き心を稍弛めにして其上に載せ一尺に付凡二分位の  
 割合とす真中一尺程つゝを隔てゝ右の端より縦に待針を  
 なし二つに折りて左右に開き心の鉤り合を検し次に縫代  
 の處に待針をなし心を綴ち附け次に心に向ふへ返して真  
 綿若くは綿を引き徐かに元の通り表の上に載せ  
 其上にも真綿を引き次に兩端の角并に折りたる  
 方の所々に引糸をつけ前に明けたる處より手を  
 入れ末端の兩角を持ちて引き返し能く角を整へ  
 丈巾を引き合せ明けたる所に躰をかけ小針に紵  
 け次に一寸位の針目にて兩端并に縦の縫ひ目の

方へ躰をかけ鋺又は火熨斗をかけて仕上をなし壓を置き  
 次に圖の如く六つに疊みて飾糸をなすべし

注意 帶の仕立の六ヶ敷所は布の取扱ひと心を弛むる  
 加減と兩端の角の能く整ふと否とにあるなりされは  
 これを仕立つるに當りては能く此三點に注意するこ  
 と肝要なり又飾糸は紅白を交せ用ふるを普通とす

第八章 普通染色の名稱

色に原色間色の二種あり原色とは黄赤青の三種にして少  
 しも他の色の交らざる固有の色を云ひ間色とは樺、綠、紫、紺  
 等を始めとして其他總べて原色にあらざるものを云ふ  
 色の種類は數多ありと雖も其原を尋ぬれば前の三種に過  
 きず即ち此原色の種々なる混合によりて各種の色を生ず



るなり例へは赤色と黄色とを合すればは橙色を生し青色と赤色とを合すればは紫色を生し黄色と青色とを合すればは綠色を生するか如し

通常用ふる所の色の種類を擧ぐれば左の如し

紅、赤、朱、桃色、肉色、紅梅色、桃鶯色、青、淺黄、空色、藍色、紅藍色、御納戸、綠、萌黄、草色、鶯色、黄色、卵色、橙色、萱艸色、鬱金、樺色、紫、藤色、濃紫、紫紺、桔梗色、鼠色、藍鼠、葡萄鼠、銀鼠、鳩羽色、鳶色、茶色、鶯茶、白茶、栗色、海老色、赤茶色、青茶色、黒等なり又形を置きたるものには小紋、更紗、友染、形附等あり

### 第十章 普通織物の名稱

衣服の料となすべき織物の種類頗る多く一々數ふるに違あらされども今其原料により大別して五種となし各其主

なるものを擧ぐ

### 第一 木綿類

生木綿、晒木綿、眞岡木綿、木綿縮、形附、絞、双子、小倉、紋羽、雲齋、飛白、金巾、寒冷紗

### 第二 麻類

生麻、晒麻、上布、縮

### 第三 絹布類

絹、紬、縮緬、絹縮、羽二重、甲斐絹、綜、龜綾、斜子、龍門、綸子、緞子、紹紗、天鷲絨、縹子、縹珍、綾、錦、金襴、糸織、八丈、博多、郡内、縞、市樂織、風通織、透谷、明石縮、琥珀織、精好、鹽瀨、仙臺平、五泉平

### 第四 交織類

觀光縮緬、觀光縹子、綿御召、又は新縮緬、綿金襴、新縹珍、新紬、毛

縐子(木綿と毛との交織なり)

### 第五 毛布類

唐縮緬(メリンス又はモスリン)フランネル、セル、カシメヤ、ゴロ、ラシヤ、フランクケット

注意 以上掲けたるものは極めて其概畧なれども世の進歩するに従ひ意匠も巧に工夫も新なるもの次第に多くなるべければ能く使用の目的を考へ其品質種類等に注意して適當なるものを選ぶべし

### 第十章 補綴法 綿布類

補綴法とは衣服に損所を生じたる時にこれを繕ふ仕方にして即ち接はき方は繼つき方の總稱なり左に其方法を説明すべし

### 第一 接はき方

接はき方には片返し割接はき掛接はきかの別あり片返しはつがんとする布二枚を取り布目を正して縫代を極め縞目を合せて待針をなし成るべく小針に接はき一方に返して平襷又は隱襷をかくるなり

割りはきは片返ししの如く能く縞目を合せともいろの細糸にて極めて小針に縫ひ縫ひ目を兩方に開き鋸をかけ平襷又は隱襷をかくるなり 但し唐縮緬の如き目あらの布を割接はきするには其はぐべき所に二分幅程の細き絹きれを當て其上を縫ひ行くべし

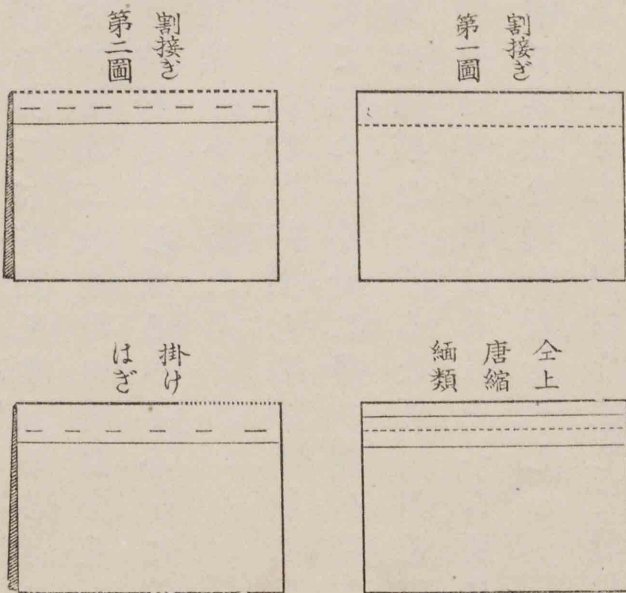
かけはきも亦布目を正して縫代を極め各裏の方へ折り縞目を能く合せて圖の如く其上に襷をかけ動かぬ様になし

一方を掛針にて張り解系ほつしよか又は友色の極めて細き糸にて

緯一線つゝにかけ縫ひ目のちゝれぬ様に接き合すべし又緯糸太きときは經糸を抄ふをよしとすかくて縫ひ終らば前の躰をぬき裏表より鋺をかくべし

### 第二 繼ぎ方

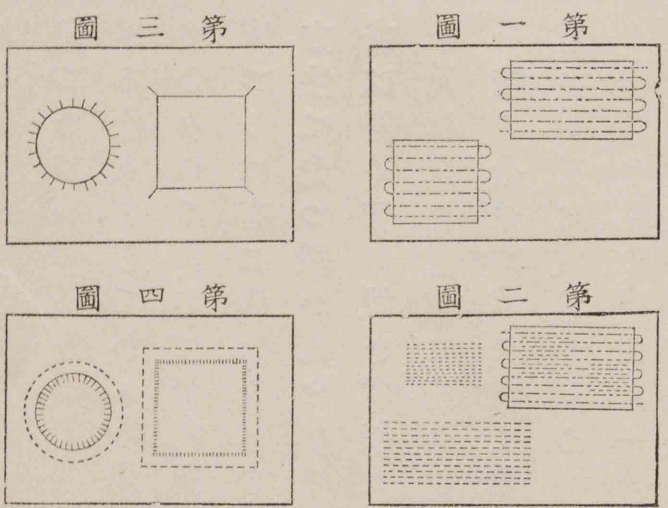
繼ぎ方には、しきし刺つき、穴つき(多ぐりつきともいふ)の三種あり、しきしは布



損して自然に薄くなりたる所或は破れたる所に施す仕方

にして其損所より稍大なるつぎ、れを取り布目又は縞目を

を能く合せて其損所にあて表布のはらぬ様注意して圖の如く雌針雄針に縫ふべし其針目の大小及ひ縫ひ目の隔りは損し方の多少によりて異れども凡そ雌針を一分雄針を四分隔りを三四分となすべし而して毎行つぎゝれの一針先きまで縫ひ其兩端のまくれぬ様にすべし又糸は兩端に少しつゝ、残し置くべし又甚しく糸のひけ



たる處などは其間を圖の如く細かに刺し置くもよし  
 刺つきは布の損所きれをあつるまでに及ばざるときに用  
 ふる仕方にしてかゝる場合にはつき布をあてすして繼ぎ  
 糸のみにて細かに刺し置くべし  
 穴つきは布に焼穴などの出來たる時に施す仕方にして其  
 方法は先づ繼かんとする穴の廻りの弱くなりたる所を角  
 或は圓く切り抜き其縁に第三圖の如く一分程の深さに鏤  
 を入れ之れを裏に折り返し繼ぎふれを取り布目及び縞目  
 を能く合せて穴に當て第四圖の如く其廻りを躡にて綴ち  
 解系か又は友色の細き糸にて成る可く表に糸目の見えさ  
 る様折り目の所の糸一線つゝにかけ細かにまつり行き次  
 に繼ぎゝれの廻りを表に縫ひ附くへし

又衣服に鉤裂したる時には先づつきゝれを當て鉤の處を  
 刺つきするか或は穴つきの如く其廻りを折りてまつり後  
 残りの部分を色紙の仕方にてつき置くへし

第十一章 本裁袷男物

第一 部分縫

袖縫ひ方

標附け方 二尺五寸の運針用布二枚并に袖口布一枚を  
 取り表裏の袖と見做し表を中にして二つに折り男物單  
 衣の通り丈、口明、人形幅及丸みの標をつけ次に袖口を掛  
 くる標をつく  
 縫ひ方 裏袖の縫代を幅五厘ひきて山標を合せ袖口を  
 丈五厘張りて待針をなし口明を一針抜き縫ひ折りを

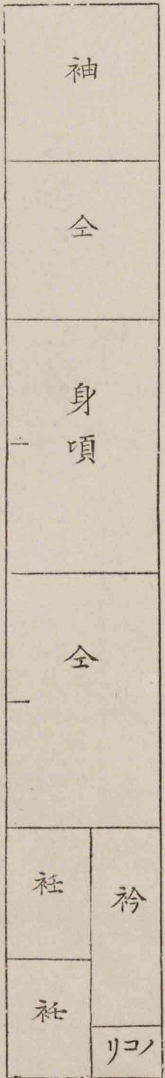
つけ袖口下を四つ留になし其系にて袖口きれのある所  
 まて返し針に其他は一針抜きに四つ縫になし夫れより  
 袖下の所まで縫ひ廻し人形の所は表裏別々に縫ひ次に  
 単衣の通り袂の丸みを拵へ人形の處は外袖の幅の縫込  
 みを斜に開きて綴ち合せ次に表を出して躰をかく

第二 裏地裁ち方

男服の裏は女服と異り大方通裏を用ふるものなれば其裁  
 ち方は表と同じく唯丈に於て衽の二倍を長くなすと鉤衽  
 ならば第二圖の如く鉤の切り込み方表と反対になすとの  
 差あるのみなり又丈短きものを棒衽になさんとせば第三  
 圖の如く衽にて山接きをなす様に裁つべし是れ男服は何  
 れも衽衿なれば裏衿にて山接きをなすもいたく疵物とは

ならざるなり

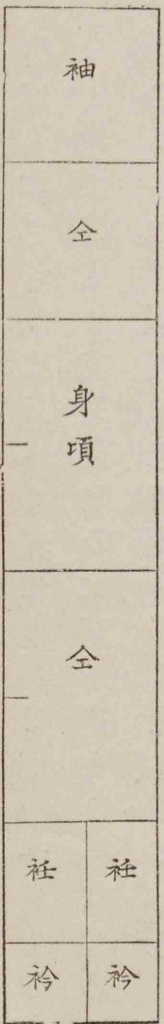
第一圖 男服裏棒衽の裁ち方



第二圖 男服裏鉤衽裁ち方



第三圖 男服裏棒衽山繼きの裁ち方



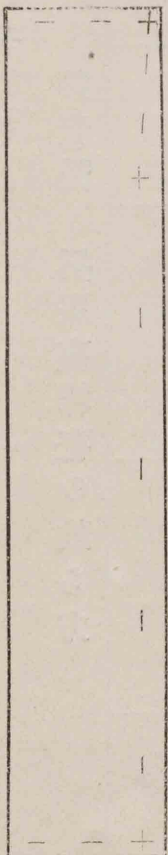
注意 裏の寸法は凡べて表に準じて定むべきものなれば此に記載せず又裏地の丈充分あるときは衽の二倍の外一二寸程長くして揚を多くなし置くべし

第三 標附け方

一、袖 部分縫の通り表裏并に袖口布に標をつく

二、身頃 表は單衣の通り標し裏は表の丈より衽の二倍を出し長き所は圖の如く肩にて揚の標をなす

但し裾廻しを附くる場合には胴裏と接ぐ所にて縫ひ込むこと女物に同じ



三、衽及び衿 第五章女物衿に同じ

第四 縫ひ方順序

一、袖 部分縫に同じ

二、身頃及び衽衿 表の脊を縫ひ後前の揚をなし裾の方に返して平襷をかけ脇布を見て上前は裾口より下前は脇明の標より縫ひ始め留め方は上下共に返針をなし揚の所まで割襷をかけ次に裏の脊を縫ひ揚の所は標の通り小針に縫ひ兩方に開きて隠襷をかけ表の通り脇を縫ひ(裾口の幅を五厘つむること女物に同じ)丈調をなし裏に割襷をかけ表裏の縫ひ目を合せて待針をなし裾を合せ衽を極め襷をかけ脊脇を綴ち表の袖山と肩山とを合せて待針をなし袖附けの下に四つ留をなし單衣の通り表

袖をつけ次に裏も表の通り山標を合せ袖下に四つ留を  
なし此四つ留は表の縫代にも糸をかくべし其糸にて表の  
如く縫ひ終りは一針返して打留をなし次に前幅の表裏  
を合せ衿附を綴ち襟を拵へ表裏の衿にて前身頃を挟み  
標に注意して待針をなし一方を掛針にて張り一針抜き  
又は四五針づゝ縫ひて糸を引き縫ひ目の縮まぬ様能く  
糸扱きをなし釧先の留は單衣の通り斜に縫代の方に返  
し衿下を縫ひ躰を掛け衿附を綴ち表裏の衿の山標を脊  
線に合せ身頃を挟みて待針をなし下前より一針抜きに  
四つ縫ひになし留め方は始め終り共に抄ひ留をなし衿先  
を縫ひ裏へ返して縫ひ込みを綴ち附け衿幅を極め二つ  
に折りて脊、衿、肩、釧先及び其他にも待針をなし凡四五分

の針目にて緋け次に横綴をなし上衿を掛け仕上げをな  
すべし

第十二章

本裁綿入仕立方

男物

前章男物衿と同じ仕方にて篋標を附け女物綿入の通り表  
裏別々に縫ひ綿を入れ袖口、衿下及び衿を緋け縦横の綴を  
なし上衿を掛け仕上げをなすべし

第十三章

洗濯及び張物の仕方

洗濯は衣服を清潔ならしむる所以にして清潔は衛生上并  
に保存上最肝要のことなり且つ衣服の垢附き汚れたるは  
外見あしく又作法上にも叶はぬことなれば常に能く洗濯  
して清浄ならしむべし  
洗濯したる衣服を仕立つるには先つ其皺折り目等を伸ば

さゞるべからず即ち其地質に相當せる方法にて張り方を  
なさゞるべからずされは衣服を取扱ふものは只に其裁縫  
に熟達せるのみならず又是等洗濯張物の仕方等をも心得  
べきなり

第一 洗濯

洗濯をなすにはなる可く快晴の日を撰み乾竿を丁寧拭  
ひ然る後取りかゝるべし又水質の如何によりて垢の落ち  
方に甚しく關係あるものなれば洗濯には用水を撰むこと  
最も肝要なり

一、方法 洗濯の仕方には種々ありて其地質により方法を  
異にすれども日常行ひ易きもの二三を擧ぐれば先づ洗  
ふべき品物を盥の中に入れ上より温湯を注ぎかけ一二

時間浸し置き夫れより手にて能く揉み洗ふものと(一)盥  
を二個並べ其上に三尺程の板を渡し右方の盥に用水及  
び洗ふべき物品を入れ左方には清水を入れ布帛を板上  
に延べ順次に刷毛にて不同なく洗ふものと(二)解きたる  
布を接ぎ合せ反物の如くなし其兩端に別布の三四寸許  
りなるを縫ひ付け其所に圓き横木を通し兩端に紐を附  
しこれを立木に結びつけ長くひきはりて汚れたる所の  
みを刷毛に石鹼を附けて擦り其上を清刷毛にて洗ひ取  
る法と(三)あり前法は多くは粗未なる木綿類に後の二法  
は絹布類其他丁寧に取り扱ふべき衣類に施す所の方法  
なり

凡て布帛類は水に浸したる後は垢の附着せる部分を明



に見出し難きもの故先づ浸さぬ前に一應調べ置き殊に汚れたる部分等には躰糸にてあらく其廻りを縫ひ目標をなし置くべし又洗ひ終りたる後は清水にて充分濯ぐ事肝要なり石鹼の効は畢竟地質に附着せる垢を溶解するにあれば濯ぎ方不充分なるときは折角溶けて浮きたる垢再び地質に附着するの恐あり又絹布類は絞らすして其まゝ竿に懸け乾かすを良しとす是れ絹布類は一度絞皺の附きたる時は張りたる後と雖も容易に延び難きものなればなり

二、用水 洗濯に用ふる水は雨水最良しとす蓋し雨水は天然の蒸溜水にして混合物(石灰鐵分鹽分泥土等)無ければなり又清き河水に接近したる所にては之れを用ふるも

可なり然れども是等は何れの地何れの時に於ても自在に得らるべきものにあらずされば已むを得ず通常多く井水を用ふ井水には往々硬水とて石灰分を多量に含み石鹼を用ふるも泡沫を生せずして少しも垢を溶解せざるものあり斯る時には炭酸曹達の少量を混し煮沸して軟水となし後用ふるを良しとす又夏日ならば日向水となすも可なり又品によりては灰汁、米泔、苛性曹達の溶液等を用ふることあり左に各種の布帛に付き其大畧を述べへし

白色の綿布麻布の類は先づ水中に石鹼を溶しこれに浸して十五分間程煮沸しよく揉て後冷水にて三度程濯ぐべし又白色の絹は石鹼の湯又は米泔汁と灰汁とを交へ

て微温に湧かしたるに能く浸し置き洗ふべし灰汁は垢を除くこと速かなれども品質の弱きものには用ふべからず其地を損する恐あり  
 白色の極めて垢しみたるものを洗ふには漂白劑を用ふ其法最初可性ソーダの溶液に浸し置き三四回攪拌せる後一反の木綿ならば漂白劑凡八匁位の割りにて水に溶き品物の少しも其上に出てぬ様になして二時間程も浸し時々上下を繰り返し垢しみたる所は手にて揉み落とし絞り上げて稀薄なる硫酸水に通し冷水にて能く濯ぎ上ぐべし

染色の絹類は雨水の温湯に石鹼を溶して洗ひ又は豆腐の搾り湯にても洗ふべし各種の色の中其二三を擧ぐれ

ば紅色の絹は米泔汁を熱くし洗ひて後湯にて濯ぐべし黑色の絹は焼酎若くは蜂蜜を加へて洗ひ紫色は熱灰汁を用ひ赤色には少量の酢を和したる石鹼水にて洗ふべし凡て染色のものは洗濯の際明礬少計を入るればよく其褪色を防ぐを得べし

フヲ子ルの類は微温の石鹼水を作りこれにソーダ少許を入れて暫く浸し置き板の上にひろげブラッシュにて洗ふべし凡て毛織物類は烈しき冷熱に逢へば地質の收缩することあるもの故強き日光に曝し又は熱湯冷水等に浸すべからず

油垢を落すには熱灰汁又は揮發油等を用ふべし揮發油は價不廉なれば灰汁石鹼水等の如く多量に使用し難し

と雖も褪色の恐れなきと地質の變ぜざるとは實に此もの、特長なりとす

## 第二 張物

張物も洗濯と同じく快晴の日を撰て糊張板其他の用具の用意をなし然る後取りかゝるべし

一、方法 張物の仕方には板張箴子張の二種あり板張は最も普通に行はるゝ方法にして長さ五尺五寸幅一尺三四寸ばかりなる板に洗ひたる布を糊にて張る仕方なり此は幅に不同なく且つ布目の歪まぬ様注意すること肝要なり箴子張は先つ洗ひたる衣を接ぎ合せ反物の如くし其兩端に別の布の三四寸許りなるを縫ひ附け其所に圓き横木を通し紐を附け之れを立木に結びつけ裏を上

して長く張り一尺程つゝを隔てゝ箴子を掛け裏の方より海蘿をひき更に一寸許りつゝ隔てゝ箴子を張り稍乾きたる時に裏面より水を濺ぎて乾すべし斯くする時は糊に斑なくして奇麗に仕上かるなり

二、糊の種類用ひ方 衣類に用ふる糊には姫糊飯糊海蘿鹿角菜生糊等の數種あり木綿類には姫糊飯糊鹿角菜を用ひ絹布類には多くは海蘿を用ふれども白羽二重の如きは生糊を用ふ生糊とは餅米の粉に水を和したるものなり又其色を一層白くなさんか爲めには白粉を混することあり又海蘿には砂糖少許を混することありこれは布の硬ばらすしてしなやかなるが爲めなり又花色絹の裏地等には糊を用ひすして晒膠を煮て用ふるを良しと

す  
綿布麻布の單衣類など洗濯したるを其まゝ糊したると  
きは幅の不同なる所若くは皺など丁寧ていねいに伸し正しく疊  
みて塵ちりに包み壓を置くべし又品によりては霧を打ちて  
疊むことあり然るときは暫時壓を置き後衣紋竹に懸け  
て乾すべし糊の濃淡は天氣によりて加減すべし晴天に  
して日光強き時には剛くなり曇天の時には弱くなるも  
のなり

第十四章 腹合帯仕立方

小供帯の如く布の伸縮を直し表を中にして正しく兩側を  
合せ真中及び兩側に假綴をなし幅及び兩端を度り兩側を  
一針抜きに兩端を半返にして一方は真中帶幅を残して小

針に縫ひ地質剛きものゝ方へ折を返し兩端の縫ひ込みを  
兩側の縫ひ込みに綴ち附け縫ひ込みの幅をやゝ張目にし  
て綴ち附く鏝こをかけ四角を綴ち心を拵へ二枚心ならば一  
枚は帶幅だけ一枚は兩側共に縫代の折り込みを引く稍弛  
めに一尺に就き凡そ二分程表の上に載せ真中所々に待針  
をなし兩方に開きて心の釣り合を檢し向側所々に待針を  
なして綴ち附け次に心に向ふに返して真綿若くは綿を引  
き元の如く表の上に載せ又一方を綴ち其上にも真綿を引  
き四角に引糸をつけ真中より引き返して兩端の角を整へ  
縫ひ残りを緋ひけ總體に躡なりかけ火熨斗又は鏝にて仕上げ  
をなし壓を置き八つに折りて小供帯の如く六所を綴ち飾  
糸をなすべし

### 第十五章

片面物三つ身并中幅大幅物

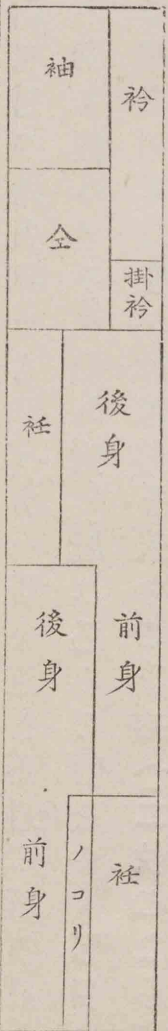
にて中小裁の裁ち方

#### 第一 片面物にて三つ身の裁ち方

一、片面物長さ一丈三尺五寸幅九寸を以て三つ身の裁ち方  
裁ち切り寸法

袖丈 一尺三寸五分同幅 六寸五分 身丈 二尺七寸  
 後幅 五寸二分 前幅 三寸八分 衿幅 三寸八分  
 衿肩明一寸四分 衿幅 二寸五分

裁ち方の圖



#### 積り方

袖丈×4+身丈×3=總丈

(總丈-袖丈×4)÷3=身丈

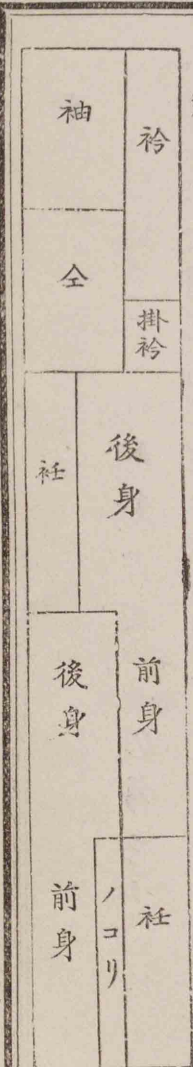
總丈-身丈×3)÷4=袖丈

二、片面物長さ一丈四尺幅一尺を以て三つ身の裁ち方

裁ち切り寸法

袖丈 一尺四寸 同幅 七寸五分 身丈 二尺八寸  
 後幅 五寸七分 前幅 四寸三分 衿幅 四寸三分  
 衿幅 二寸五分 衿肩明一寸四分

裁ち方の圖



積り方は前題に同じ

第二 中幅物にて小裁の裁ち方

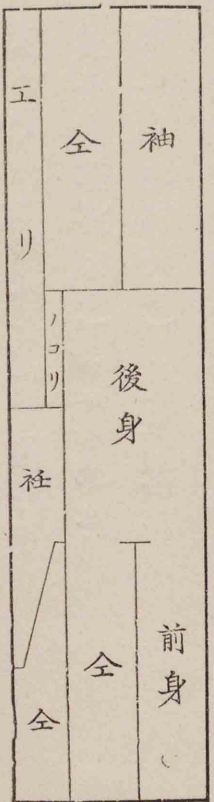
一、幅一尺二寸五分長さ六尺九寸を以て小裁の裁ち方本裁一つ身相當

裁ち切り寸法

- 袖丈 一尺二寸五分 同幅 五寸三分
- 身丈 二尺二寸 後幅 九寸
- 前幅 四寸五分 衿肩明九分
- 衿丈 二尺一寸 同衿下九寸
- 衿の切込み六分 衿幅 三寸五分
- 衿丈 有丈 衿幅 一寸四分

裁ち方の圖

積り方



袖丈 × 2 + 身丈 × 2 = 總丈

(總丈 - 袖丈 × 2) ÷ 2 = 身丈

(總丈 - 身丈 × 2) ÷ 2 = 袖丈

二、幅一尺二寸長さ一丈一尺二寸を以て小裁の裁ち方三つ身相當

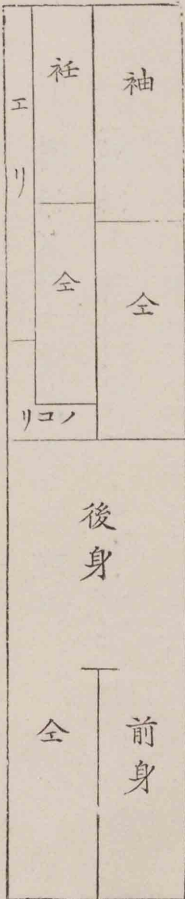
裁ち切り寸法

- 袖丈 一尺四寸 同幅 七寸

身丈 二尺八寸  
 衿丈 二尺六寸  
 衿丈 四尺八寸

衿肩明一寸五分  
 同幅 三寸三分  
 同幅 一寸七分

裁ち方の圖



積り方

袖丈×4+身丈×2=總丈  
 (總丈-袖丈×4)÷2=身丈  
 (總丈-身丈×2)÷4=袖丈

三丈幅共に前題と同じ用布を用ひて身幅衿巾等を廣くな

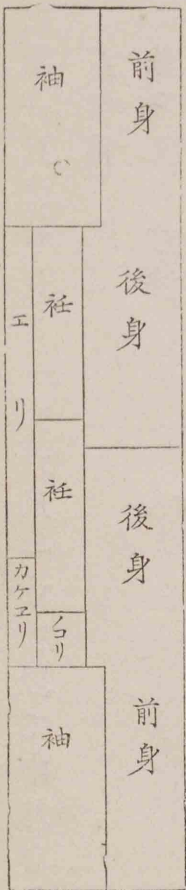
とんとせば左圖の如く裁つべし

裁ち切り寸法

袖丈 一尺四寸  
 身丈 二尺八寸  
 衿肩明 一寸五分  
 衿丈 四尺八寸  
 衿幅 三寸七分  
 衿幅 一寸八分

同幅 七寸  
 後幅 六寸五分  
 前幅 五寸

裁ち方の圖

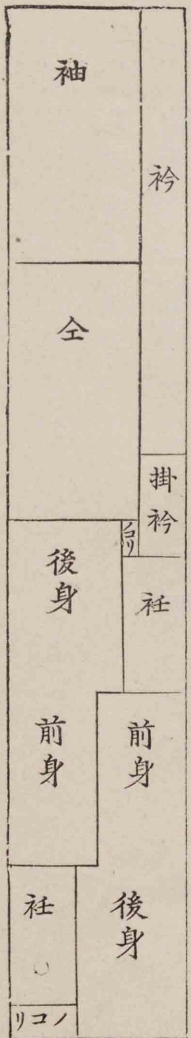


四幅一尺二寸長と一丈六尺一寸を以て中裁の裁ち方四つ身相當

裁ち切り寸法

袖丈	一尺七寸	同幅	九寸
身丈	三尺一寸	後幅	八寸
前幅	六寸	衿肩明	二寸
衿幅	四寸	衿丈	二尺九寸
衿幅	三寸	衿丈	五尺四寸

裁ち方の圖



積り方

袖丈  $\times 4 +$  身丈  $\times 3 =$  總丈  
 (總丈 - 袖丈  $\times 4) \div 3 =$  身丈  
 (總丈 - 身丈  $\times 3) \div 4 =$  袖丈

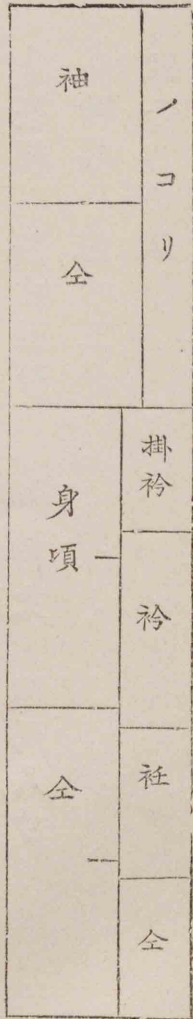
五幅一尺三寸長と二丈三尺を以て本裁女物裁ち方

裁ち切り寸法

袖丈	一尺七寸	同幅	九寸五分
身丈	四尺五分	身幅	八寸五分
衿肩明	二寸五分	衿丈	三尺六寸
衿幅	四寸五分	衿丈	四尺八寸
衿幅	四寸五分		

裁ち方の圖





積り方

(袖丈 + 身丈) × 4 = 總丈

(總丈 - 袖丈 × 4) ÷ 4 = 身丈

(總丈 - 身丈 × 4) ÷ 4 = 衿丈

六、前題と同じ幅にて長さ一丈八尺九寸五分なるときは左圖の如く裁つべし

裁ち切り寸法 凡て前題に同じ

但袖幅 九寸二分 前幅六寸九分

衿幅 三寸八分 衿肩明二寸五分 内五分の裁込み

裁ち方の圖



積り方 本章第二、四に同じ

七、幅一尺二寸長さ二丈四尺六寸を以て本裁男服の裁ち方

裁切り寸法

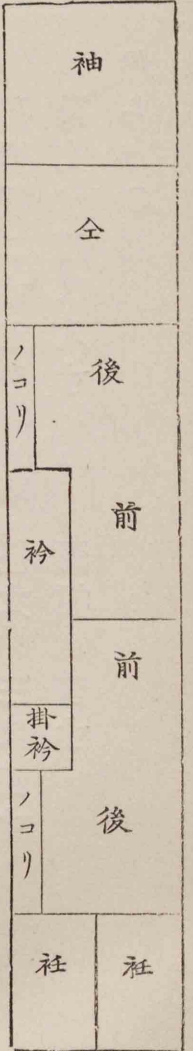
袖丈 一尺四寸五分 身丈 三尺八寸五分

後幅 一尺 前幅 八寸

衿肩明二寸五分 内五分裁込み 衿丈 三尺四寸

衿丈 四尺八寸 同幅 四寸

裁ち方の圖



積り方

(袖丈 + 身丈) × 4 + 衿丈 = 總丈

(總丈 - 袖丈 × 4) + 衿下リ = 身丈

總丈 - (身丈 × 5 - 衿下リ) = 袖丈

第三 大幅物にて小裁 中裁 本裁の裁ち方

二、幅二尺長と四尺六寸を以て小裁の裁ち方(二つ身相當)

裁切り寸法

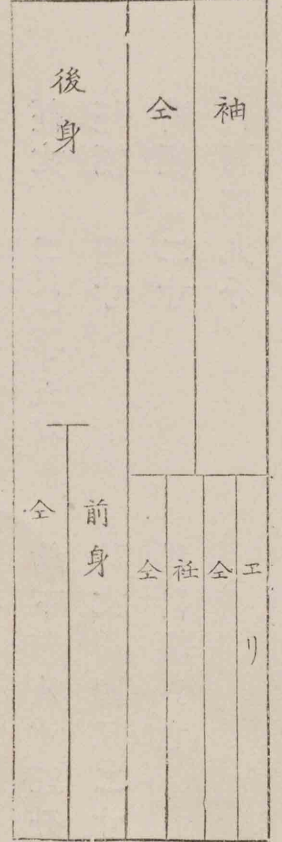
袖丈 一尺二寸五分

同幅

五寸五分

身丈 二尺三寸 同幅 九寸  
 衿丈 二尺一寸 同幅 三寸八分  
 衿丈 四尺二寸 同幅 一寸七分  
 衿肩明九分

裁ち方の圖



積り方

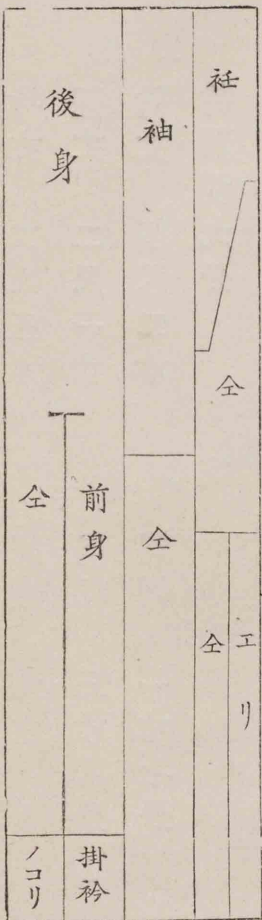
身丈 × 2 = 總丈

二、幅二尺長と五尺二寸を以て小裁の裁ち方(二つ身相當)

裁ち切り寸法

- 袖丈 一尺三寸 同幅 五寸五分
- 身丈 二尺三寸五分 同幅 九寸五分
- 衿丈 二尺二寸五分 鈎下 八寸五分
- 衿幅 四寸 衿丈 四尺二寸
- 衿幅 二寸 掛衿幅 三寸
- 衿肩明 九分

裁ち方の圖



積り方

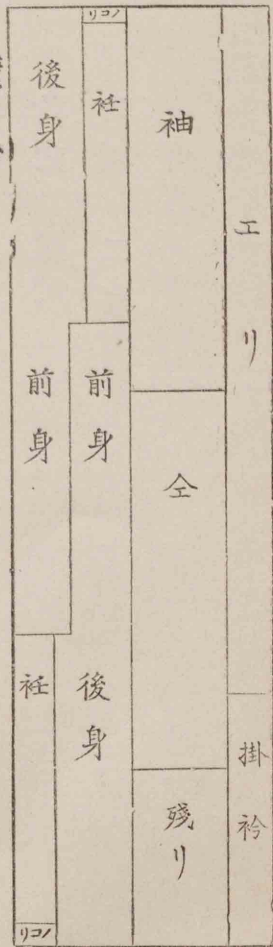
三幅×ハレ三幅

三幅二尺長さ八尺一寸を以て小裁の裁ち方(三つ身相當)

裁ち切り寸法

- 袖丈 一尺五寸 同幅 七寸三分
- 身丈 二尺七寸 後幅 六寸五分
- 前幅 五寸 衿丈 二尺五寸五分
- 衿幅 三寸五分
- 衿丈 四尺七寸
- 衿幅 二寸七分
- 衿肩明 一寸六分

裁ち方の圖



積り方

身丈 × 3 = 總丈

衿丈 ÷ 3 = 身丈

四幅一尺八寸五分長と九尺三寸を以て中裁の裁ち方(四つ身相當)

裁ち切り寸法

袖丈 一尺六寸五分

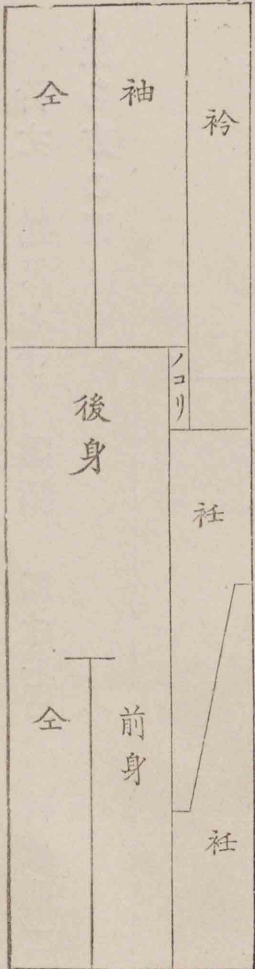
身丈 三尺

同幅 八寸二分

同幅 一尺四寸五分

衿丈 二尺八寸      鈎下 一尺五寸  
 衿幅 四寸          衿丈 有丈  
 衿幅 二寸一分      衿肩明 一寸九分

裁ち方の圖



積り方

(袖丈 + 身丈) × 2 = 總丈

(總丈 - 袖丈) ÷ 2 = 身丈

(總丈 - 身丈) ÷ 2 = 袖丈

五幅一尺九寸長と一丈四尺を以て本裁の裁ち方

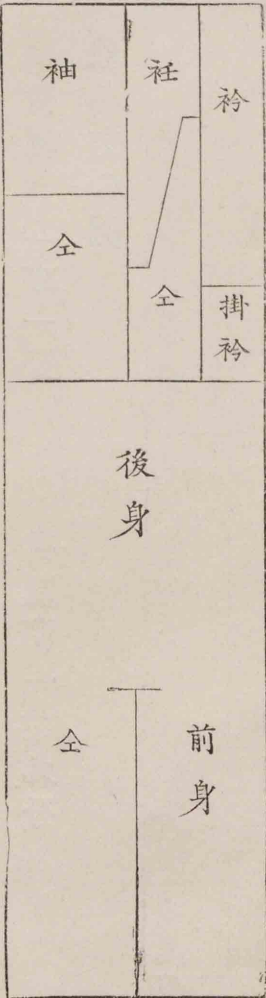
裁切り寸法

袖丈 一尺五寸 同幅 九寸五分 身丈 四尺

衿丈 三尺五寸五分 衿幅 四寸八分 衿下二尺四寸五分

衿丈 四尺七寸 同幅 四寸七分 衿肩明二寸五分

裁ち方の圖



積り方

$(\text{袖丈} \times 4) + (\text{身丈} \times 2) = \text{總丈}$

六幅一尺七寸五分長と一丈五尺を以て本裁女服の裁ち方

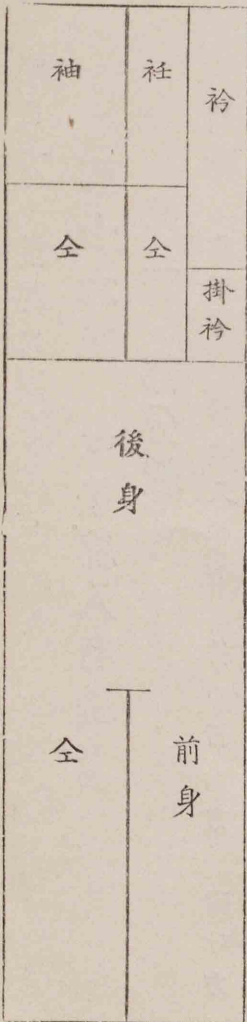
裁ち切り寸法

袖丈 一尺七寸五分 同幅 九寸二分 身丈 四尺五分

衿丈 三尺五寸 衿幅 四寸七分 衿丈 四尺八寸

衿幅 三寸六分

裁ち方の圖



積り方 前題に同じ

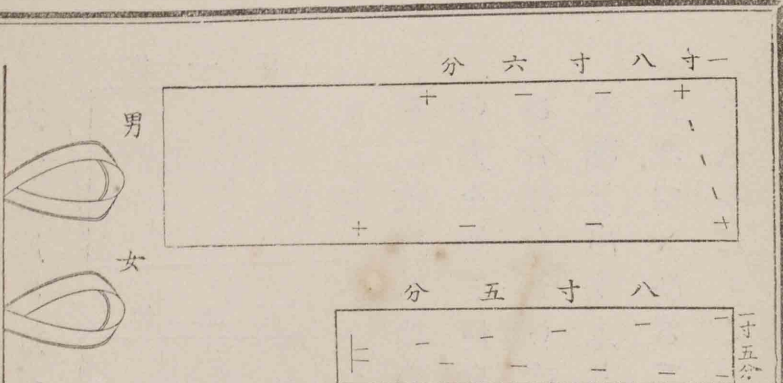
### 第十六章 本裁綿入羽織 女物

#### 第一 部分縫

前縫 前下り 襦の入れ方 衿の折り方 附け方

#### 一、前身頃及び襦標附け方

半幅の素縫布二枚を取りて横をばぎ表裏の前身頃と見  
 做し二枚重ねて正しく裁板の上に置き左を衿肩右を裾  
 口手前を衿附け向ふを脇とし圖の如く前幅前下り脇明  
 紐附の標を附け次に袖口切れ一枚を取りて襦と見做し  
 二つに折りて丈幅を極め後前の曲りの標を附くべし但  
 し曲りの割合は仕立上りの下の襦幅より上の襦幅を減  
 き残りを三分して其一を後身の方へ其二を前身の方へ



曲くるものごす又縫込みあるごきは

凡へて後身の方へ置くべし

二、縫ひ方 裾の山標を一分表身頃の方  
 に越し表を見て前下りの標の一分上  
 を縫ひ(裏を幅五厘程弛くす)五厘の着  
 せにて裏の方に返して平躰をかけ表  
 身頃を一分裏へ折返して山標をつけ  
 次に襦に標の通り折をつけや、張り  
 目に前身頃に合せ待針をなして之れ  
 を縫ひ身頃の方へ折り返して平躰を  
 かけ次に衿附を綴ち紐附をつくべし

三、衿の折り方 表を出し衿幅の二倍に

六分五厘を加へて縦に折り(第壹圖中)になるべき布はそ

れより六

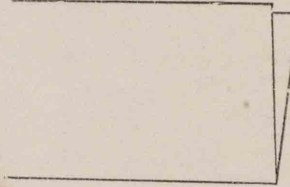
分五厘を

減きて折

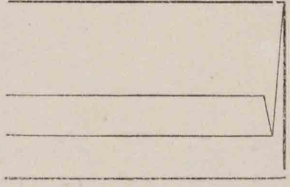
り(第二圖

次に縫代

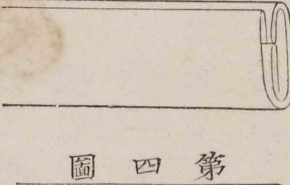
第一圖



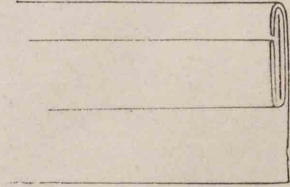
第二圖



第三圖



第四圖



を二枚即ち輪の方を三分五厘一枚の方を三分に折り輪  
の方を幅五厘出して更に二つに折り(第三圖)山標丈標及  
び合標をつけ次に全體に鋸をかく又心を入るゝときは  
其幅を出來上りの衿幅より一分狭くして平に切り兩方  
五厘つゝひきて二枚に折りたる方に載せ(第四圖)幅の折  
り込みにてこれを包み躰にてあらく綴ち置くべし

衿の附け方 衿の二枚になりたる方を裏身頃の衿附の  
所に合せ紐附より上は衿の方をや、弛めに下は同様に  
なして五寸程つゝを置きて待針をなし衿の方を見て一  
針抜きに縫ひ紐附の處は二度程返し針をなして能く留  
め夫れより衿先きを縫ひ(附け終りより二三分下にて幅  
は二枚になりたる方即ち衿の表になるべき方を五厘程  
弛め置く裏の方に返して縫ひ込みを綴ち附け次に表を  
出し合標を合せて縮けつくべし  
但し衿附の際前身頃の下の方は三寸程上より自然に  
幅一分五厘程を縫ひこみ又心は衿先きに縫ひ附けず  
して折り目の處までにて切り取るべし

第二 裁ち方積り方

用布 二丈八尺

普通裁ち切り寸法

袖丈 一尺六寸

衿丈 六尺二寸

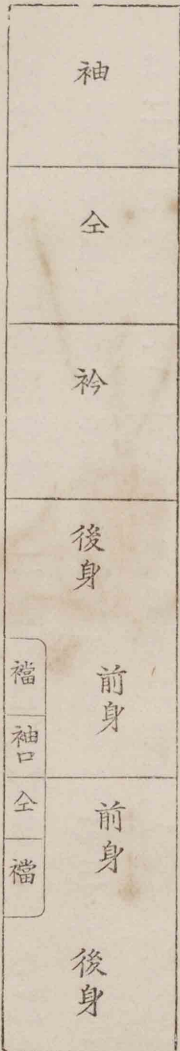
後丈 三尺三寸五分

前丈 四尺三寸五分

衿肩明二寸七分内四分の廻し

袖口 一尺六寸

裁ち方の圖



積り方

後丈及び袖丈を知りて總丈を求むる法

$(\text{袖丈} + \text{後丈}) \times 4 + \text{衿丈} + \text{後前の差} \times 2 = \text{總丈}$

總丈及び袖丈を知りて後丈を求むる法

$(\text{總丈} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{衿丈} + \text{後前の差} \times 2)) \div 4 = \text{後身丈}$

注意 後前の差はなるべくは一尺を可とすれども後の折返し餘り少きものは八寸とすべし

衿丈を定むるには身丈と裁切りの衿肩明と前下りと縫代とを(一寸以上)加へ之れを二倍すべし

### 第三 仕立上寸法

袖丈 一尺五寸七分 同幅 八寸七分

袖口明 六寸六分 同附 六寸七分

身丈 二尺五寸 後幅 七寸五分

肩幅 七寸八分 前幅 四寸八分

前下り一寸 衿肩明二寸五分



身八つ口二寸五分

紐附 八寸肩より

衿幅 一寸七分

襜幅 一寸六分

ゆき 一尺六寸五分

#### 第四 標附け方

一、袖 女物綿入の通り表袖の表を中にして二つに折り正しく二枚揃へ山丈、口明、附幅の標を附け次に裏の上に袖口を載せ表に準じて標すべし又裏袖のひかへかた及び袖口の掛け方等も凡べて綿入に同じ

二、身頃 表身頃の表を中にして二枚揃へ衿肩を左に脊を向ふにして下に置き其上に裏を載せ脊及び脇を假綴し山標を附け(地質堅きものは二分軟きものは一分後身へ越す)後前の丈を極め(後は脊にて仕立上より三分長くし

前は後丈に前下りど外に二分を加へたるものとす)裏の方に折り返し胴継ぎの標を附け次に山標より二つに折り脊を手前に後身を上に出して袖附、身の八つ口、後幅、肩幅、前幅、前丈前下りの標を附け次に後身を左に開き紐附及び所々に前幅の標をつく

三、襜 表裏の襜を繼ぎ表を中にして二つに折り四枚重ね丈幅を極め(丈は脇の丈より脇明に一分を加へて減きたる残りどす)部分縫の通り下の襜幅より上の襜巾をひき残りを三分して其一を後身に附く方に其二を前身に附く方に曲け定木を置きて其間處々に標を附くべし

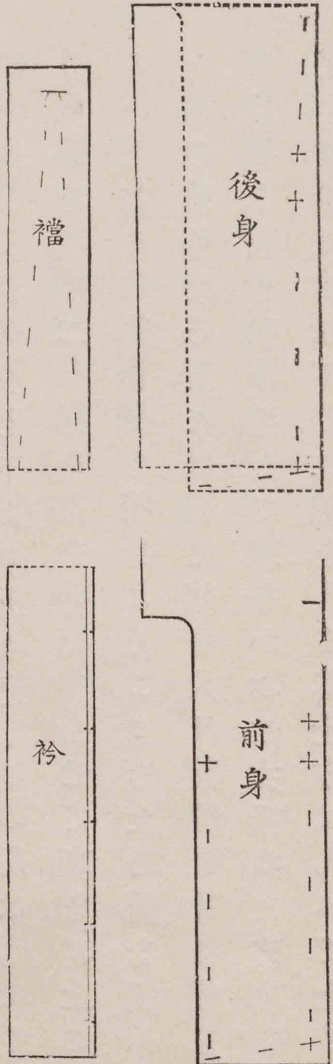
四、衿 部分縫の如く折りをつけ心を入れ横に二つに折りて山標丈標(前身頃衿付の丈に衿肩明と外に三分を加ふ)

及び合標を附け次に鋺をかくべし  
 注意 衿半幅なるときは別に木綿若くは金巾等の餘り  
 硬からぬ布半幅を取りこれを裁ち目の方に縫ひつけ  
 次に表を衿幅の二倍に三分を加へて折り裏は夫れよ  
 り三分五厘を減きて折りをつけ裁ち目の方は二枚共  
 に三分に折り次にこれを二つに折り鋺をかくべし  
 他心の入れ方合標の附け方等凡べて丸衿に同じ



第五 縫ひ方順序

一、袖 標の通り表裏の袖を縫ひ麩をかく  
 二、身頃 標を合せて表裏の胴繼きをなし裏の方 返し麩  
 をかけ脊及び前下りを縫ひ脊は着物と同様に前下りは  
 裏の方に折りをつけ麩をかけ後前に襠を入れ身頃の方  
 に返して麩をかけ表裏の袖を附け表袖は袖の方 裏袖



は身頃の方に折り返し、襟をかけ袖口及び八つ口に含み綿をなし裏を出して夜具疊みとし表をのべて綿を入れる

三、綿の入れ方 畧ぼ綿入に同じく先づ表の後身を延べて其上に眞綿を引き袖を附より前身の方に折り返し上は肩より九寸程下は丈標より三四寸程左右は袖幅だけに廣げ敷切れには附綿をなし更に裾口の處に二寸幅程の綿を入れ丈標の少し下より折り返し袖の所は附にて切り眞綿を引き二尺指を置き脊線を合せて裏を其上にひろげ上前に眞綿を引き後身よりつゞきたる綿を折り返し袖の残りたる所には別に綿を入れ前幅だけに綿を切り眞綿を引き引き返して表をかぶせ丈幅共に表裏を能く引き合せ次に下前に綿を入れる其仕方は凡べて上前に

同じ

四、縮け方 裾口に能く綿をひきよせ五分程上に假綴をなし衿附の處にも亦假綴をなし綿入の通り袖口及び八つ口を縮け左右に紐附を附け次に衿を附く

衿の附け方は部分縫の通り身頃の裏を見て衿の二枚に折りたる方の山標を脊線に合せ待針をなしそれより紐附の處まで衿をやゝ弛めに合せ衿肩廻し并に其他所々に待針をなし衿先の所にて前身の幅一分五厘を縫代の方へ入れ衿の方を見て左前の下より一針抜きに縫ひ上げ紐附の所は返針に衿肩廻しは小針に脊線は亦一針返し右前も左前の通り待針をなし縫ひ下け次に左右の衿先を縫ひ縫ひ込みを裏即ち衿附の方に返して綴ち附け

合標を合せて衿紮けをなし左右の後襠を綴ち衿附に襷をかけ仕上をなす仕上の仕方は先づ裏を出して袖口、八つ口、袖附、襠、脊縫、胴繼、衿附等に鏝又は火熨斗をかけ次に表を出して總體に掛くべし

注意 羽織の最も肝要なる所は衿の付け方にありされば仕立方にも仕上方にも充分此處に注意して丁寧にするべし又袖口八つ口等は仕上げの際山の處に折り目の附かぬ様注意すべし

### 第十七章 本裁衿羽織 男物

#### 第一 部分縫

- 前縫 前下り 襠の入れ方 衿の折り方 付け方
- 一、前身頃及び襠標付け方

前身頃の標は凡べて前章女物に同じ襠は表を外にして二つに折り丈を度り上の縫代を折り襷をかけ真中に假綴をなし標を附く 但し上の襠幅は着の分一分をあく縫ひ方 女物の通り前下りを縫ひ衿附を綴ち紐附を附く

衿の折り方 女物に同じ

衿の付け方 身頃の裏を見て衿の二枚になりたる方を合せ前身頃を三つ或は四つに折りて其中に疊み込み衿は女物と同じ弛みを取りて合標を合せ待針をなし肩より三寸程手前まで一針抜きに四つ縫にし此處にて一針返し之れより裏の衿と身頃とのみを縫ひ附け幅の折り込みを能く整へ次に上方より衿を引返し表の縫ひ残り

を小針に縮け次に前襷を前身頃に合せ襷をや、張り目に  
にして待針をなし下より一針抜きに四つ縫ひにすべし  
其留め方は下方は留結にして襷の折り目の裏の方より  
身頃の折り目に通し細き針目にて環を造りこれに貫き  
通して能く引きしめ上方は一針返して更に一寸程返針  
をなすべし又地薄の品は留の處に小き布を附するをよ  
しとす次に襷及び衿に躰をかくること綿入に同じ

第二 裁ち方積り方

裁ち方積り方共に前章綿入羽織に異なることなし只寸法  
に於て袖丈短きのみなれば此に省きぬ

第三 仕立上寸法

袖丈 一尺四寸二分 同幅 九寸

袖口明七寸六分 同附 一尺四寸二分

身丈 二尺六寸 後幅 八寸

前幅 五寸三分

肩幅 八寸五分 衿肩明二寸五分

衿幅 一寸九分 紐附 八寸肩より

前下り一寸 襷幅 一寸八分

ゆき 一尺七寸五分

第四 標附け方

一、袖 男物衿之通り 但し人形を除く

二、身頃襷衿 前の寸法により綿入羽織と同じ順序にて標  
を附くべし

第五 縫ひ方順序

一袖 男物袷の通り先つ袖口を合せ袖下を縫ひ躰をかくべし 但し袖下は附の處二寸程表裏各別々に縫ひ置くべし

二身頃 標の通り表裏の胴繼きをなし裏へ返して躰をかけ表裏の脊を合せ(衿肩を右に持ちて裏を向ふにす)胴繼の處を揃へて待針をなし表を見て衿肩の方より一針抜きに四つ縫にし終りは襠の下方と同じ留をなして二寸程返針をなし表を出して躰をかくべし次に前下りを縫ひ裏に返して躰をかけ襠丈の縫込みを折り躰にてどめ後身頃にて後襠を包み一針抜きに四つ縫いにし(上下の留め方は部分縫の通り)身頃の方へ折返して躰をかけ次に前身頃衿附の所假綴をなし紐附を附け夫より裏の脊

線と衿の真中とを合せて待針をなし部分縫の通り衿の表裏にて前身を挟み標を合せて待針をなし左前より一針抜きに縫ひ紐附の所は二度程返針をなし始めの合標の處まで縫ひ此處にて返針をなしこれより右前の始めの合標の處まで衿の表を放し裏即ち二枚になりたる方と身頃とのみを合せて縫ひこれより下は凡べて左前の通りに附け下くべし

次に衿先を縫ひ裏に返して綴ち附け衿肩明の所より靜かに引き出し前に明け置きたる所の表衿を細に縮け前襠を入れ躰をかけ表袖を表身頃に合せ袖下の處に留をなし(留の仕方は袖にて身頃を包み襠にかけて四つ留をなす)留際の所一寸五分程の間は身頃の幅標より五厘先

きを斜に折りて小針に刺縫ひにし其他は單衣の通り縫ひ  
 襷をかけ(縫込み多きものは割襷をかく)次に裏袖に留  
 をなし(身頃にて袖を包み表の縫ひ込みにかけて四つ留  
 をなす)留め際の處は袖の方を斜に折りて後身の方より  
 附け始め前身の方五寸程を残し此處より引返して小針  
 に緞け附け折り目は身頃の方に返し衿に襷をかけ裏表  
 に火熨斗又は鋏をかけて仕上をなすべし

第十八章 本裁綿入羽織仕立方男物

寸法標附け方等凡べて前章袷羽織に同じく仕立方は女  
 物綿入羽織に同じ

第十九章 袖無綿入羽織

第一 裁ち方

用布 表 並幅五尺 裏 三尺

裁ち切り寸法

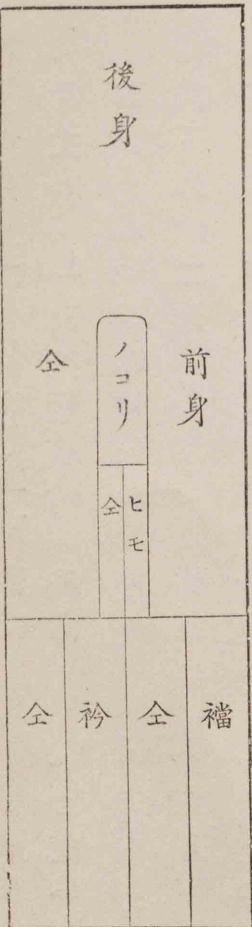
後丈 一尺五寸七分 前丈 一尺六寸三分

衿丈 一尺八寸 衿幅 三寸

襷幅 二寸 衿肩明 一寸内二分の廻し

紐丈 六寸

裁ち方の圖



第二 仕立上寸法

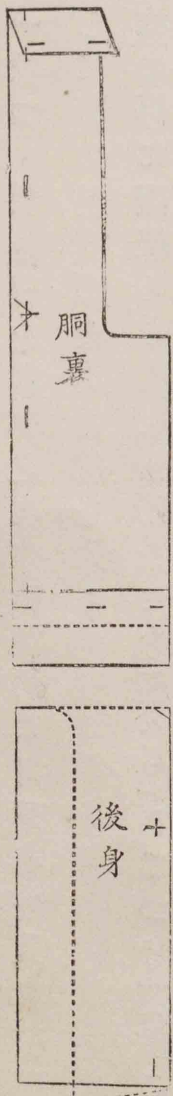
身丈	一尺五寸	後巾	いっばい
前幅	いっばい	脇明	五寸五分
前下り	二分	襟巾	上九分下一寸五分
紐附	五寸肩より	襟幅	一寸二分

第三 標附け方

一、身頃 表裏とも表を中にして縦に二つに折り羽織の通り表の上に裏を載せて下に置き兩脇を綴ち山標を附け後前の丈を極め二分衿肩を後身へ越し前下りは二分下ぐるものとして表裏にて二分つゝ斜に標す此下りの仕方は表の見返し少きものに限る肩より二つに折り幅脇明紐附の標を附く

二、襟 表裏を接き表を中にして二つに折り丈幅を極め後身に附く所は真直に前身に附く所は寸法通り斜に曲けて標をつく

三、衿 羽織の半幅衿の如く先つ衿に裏布を縫ひ附け次に衿幅の二倍に三分を加へて折り裏布はそれより三分五厘を減きて折り今縫ひたる方も亦三分の縫代に折りこれを二つに折りて山丈及び合標をつくへし



第四 縫ひ方順序

身頃の胴接きをなし襟をかけ襟を入れ亦襟をかけ脇明の



所は裏をや、張り目に縫ひ裏の方に折り返して襷をかけ次に表の後身を出して綿を入れ裾口及び脇明の處は別に一枚つゝ、狭き綿を載せ之れを折り肩より両手を入れ引返して裏の前身頃を出し綿を入れる次に裾に假綴ちをなし衿附をどち紐を縫ひてつけ羽織の通り衿をつけ衿先を縫ひ裏に返して綴ち附け合標を合せて緝け上くべし

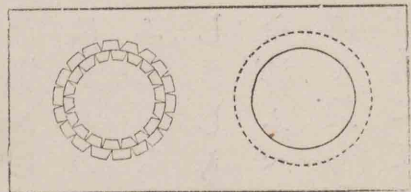
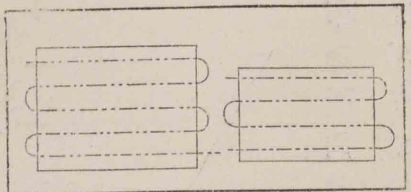
注意 袖無羽織の種類により肩入と稱して肩より七八寸の間別布を入るゝことあり斯る時には後前とも此布と腰廻りの布とをはぎ肩入の方に返して襷をかけ然る後通し表のものと同じく標すべし

第二十章

補綴法

絹布類 毛布類

絹物の繕ひ方も大方木綿物と異なることなくはぎかたには片返し割りはぎかけはぎありつき方にはしきし刺つき穴つきありはぎ方は凡べて木綿物に等しくしきしは圖の如く雌針二つと雄針一つとづゝに

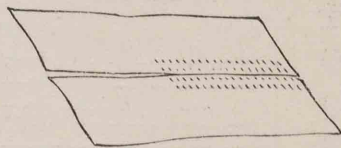


て木綿物よりは針目も細かに縫ふべし又穴つきは先つ木綿物の通り極めて細かにまつり次にあてきれの方にも圖の如く其廻りに鉄を入れ之れをひらきてかけはぎの如くなし縫ひ目に少しく

糊をひき其上より鍔をかくべし毛布類のはぎかたは先つはぐべき布の両端を平にきりて

正しく衝き合せ友色の細き糸にて地質の間を抄ひつぎめの處のみ少く表にかけて圖の如く七八分程を細かに刺し置くべし又毛の長き品ならばはぎめの處に別に糊にて毛をつけ其部を被ふも可なり

しきしもなるべく表に出でざる様地質の間を抄ふべし又穴つぎは先づはぐへき穴及び布を四角或は丸く裁ち切り裁ち目を合せて躰をかけ次にはぎ方と同じ仕方にてつくなり



注意 右は何れも毛布類中地厚の品に就きて云へることにしてメリンス等の如き地薄の品は綿布或は絹布類と同じ方法にて補綴すべし

應用問題之部

- 一、常幅長さ八尺七寸の布を以て一つ身襦袢を二枚裁ち合はするに袖丈六寸五分に爲せば身の丈何程なるか其積り方算式并に裁ち方の圖を記せ
- 二、袖丈一尺三寸身丈一尺五寸裁ち切りとして車裁襦袢を裁たんとせば其用布何程を要するか又裁ち方の圖をも記せ
- 三、並幅長さ三丈一尺四寸を以て男物襦袢二枚裁ち合はするに身丈二尺裁ち切りとせば袖丈何程なるか其裁ち方及ひ積り方を記せ
- 四、片面物並幅長さ一丈八尺六寸の布を以て一つ身二枚を裁たんとするに袖丈一尺二寸五分とせば身丈何程なる

か又裁ち方の圖をも記せ 但し衽鉤裁  
 五、並幅長さ一丈一尺八寸を以て半幅衽の大一つ身を裁た  
 んとせば如何なる寸法によるべきか  
 六、並幅半反を以て普通の三つ身を裁たんとせば其寸法は  
 如何にして可なるか又裁ち方の圖をも記せ  
 七、幅一尺長さ二丈二尺四寸の片面物を以て三つ身二枚を  
 裁たんとするに身丈二尺六寸にせば他は如何なる割合  
 になして可なるか其寸法及び裁ち方の圖を記せ  
 八、並幅一丈四尺五寸の片面物を以て三つ身を裁つに袖丈  
 一尺三寸として下前にてはぎをするものとせば身丈何  
 程なるか又其圖を記せ  
 九、並幅一丈八尺を以て普通の四つ身を裁たんとせば其寸

法及び裁ち方の圖如何

一〇、前題と同尺の布を以て前幅を廣くなさんとせば如何  
 なる裁方によるべきか  
 一一、常幅の布を以て四つ身筒袖を裁つに袖丈六寸五分身  
 丈二尺九寸五分にせば其用布何程なるか  
 一二、並幅二丈四尺を以て前衽裁の裁ち方を圖解せよ  
 但し身丈三尺五寸衽下り三寸  
 一三、幅一尺六寸五分の布を以て長襦袢を裁つに袖丈一尺  
 七寸身丈三尺五寸に爲せば其用布何程なるか積り方及  
 び裁ち方の圖を記せ  
 但し半衿下は別布を入れる  
 一四、常幅長さ二丈九尺四寸の布を以て女服を裁つに袖丈

一尺六寸にせば身丈及び衿衽地何程なるか  
但し棒衽

一五、幅九寸八分長さ二丈九尺二寸の片面物を以て女服を裁つに袖丈一尺七寸身丈三尺九寸五分として姥衽又は衽にはぎをせぬ様になさんには如何なる裁ち方によるべきか

一六、常幅の布にて男服を裁つに袖丈一尺四寸五分衽下り四寸五分身丈三尺八寸五分になさんどせば總用布何程なるか又積り方の算式をも記せ 但し棒衽

一七、幅八寸五分長さ七尺の布を以て裾廻しの裁ち方を圖解せよ

一八、幅一尺二寸長さ六尺の布を以て裾廻しの裁ち方を圖

解せよ

一九、袖丈一尺五寸身丈四尺衽五分出來上りの女服綿入を作らんとせば胴裏地及び裾廻しきれば何程を要するか其積り方及び裁ち方の圖を記せ

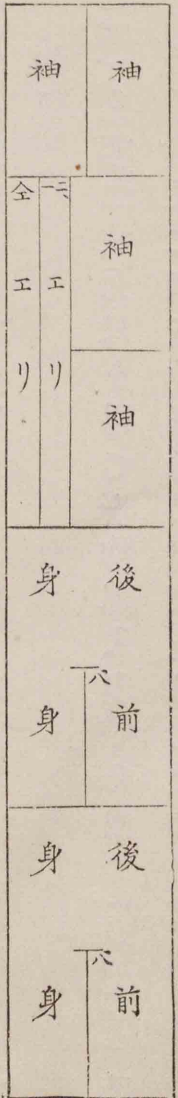
但し衿山繼き裾廻しの高さ一尺二寸

二〇、常幅二丈八尺を以て男物袷羽織を裁つに袖丈一尺四寸身丈二尺五寸の出來上りとせば其裁ち方及び積り方如何

二一、常幅二丈九尺を以て女物綿入羽織を裁つに袖丈一尺六寸身丈二尺五寸五分の出來上りになせば裏地何程要するか其積り方及び裏の裁ち方を記載すべし

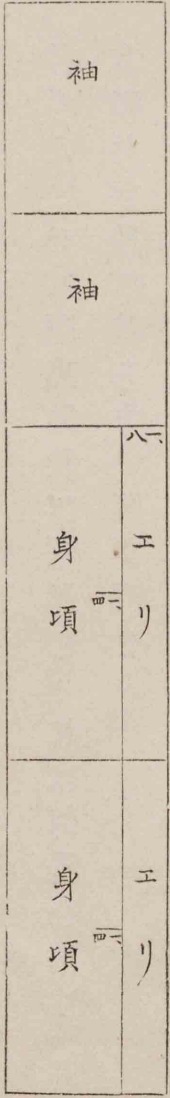
答之部

一、身丈一尺二寸

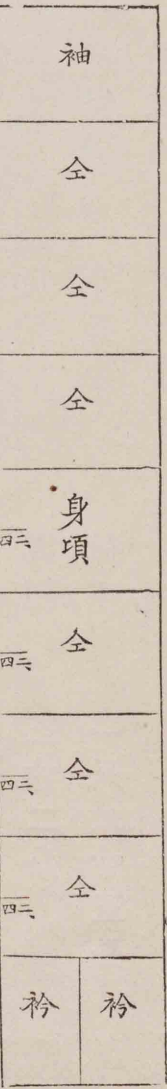


$$(87, - 6,5 \times 6) \div 4$$

二、用布一丈一尺二寸

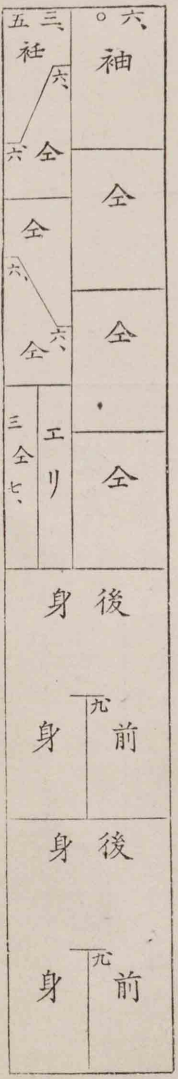


三、袖丈一尺三寸五分



$$\{314, -(20, \times 8 + 46)\} \div 8$$

四、身丈二尺一寸五分



五、袖丈

一尺三寸

同幅

七寸

身丈

二尺二寸五分

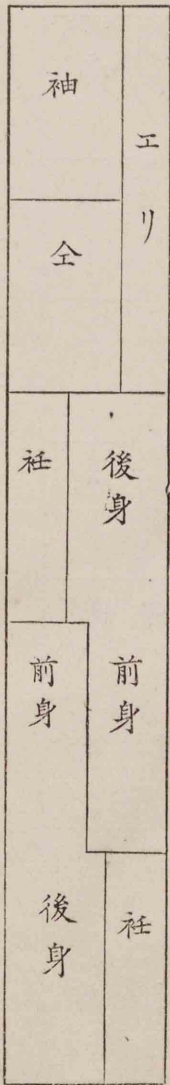
衿丈

二尺一寸

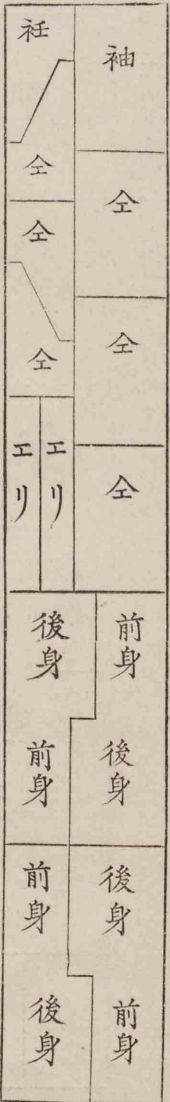
衿肩明

九分

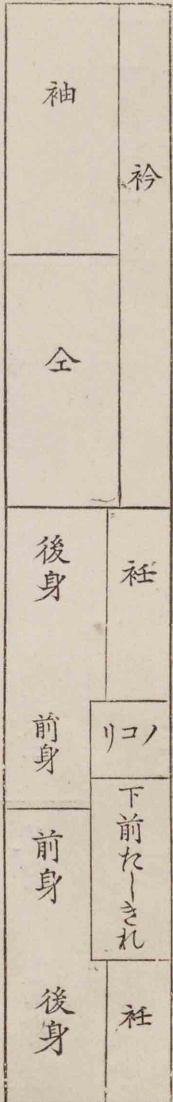
六袖丈 一尺四寸 同幅 七寸二分  
 身丈 二尺八寸 後幅 五寸八分  
 衿肩明 一寸五分 衿幅 三寸二分  
 衿幅 一寸八分



七袖丈 一尺五寸 同幅 六寸八分  
 後幅 五寸七分 前幅 四寸三分  
 衿丈 二尺五寸 同幅 三寸二分  
 衿肩明 一寸五分 衿下 一尺二寸五分  
 衿丈 四尺五寸

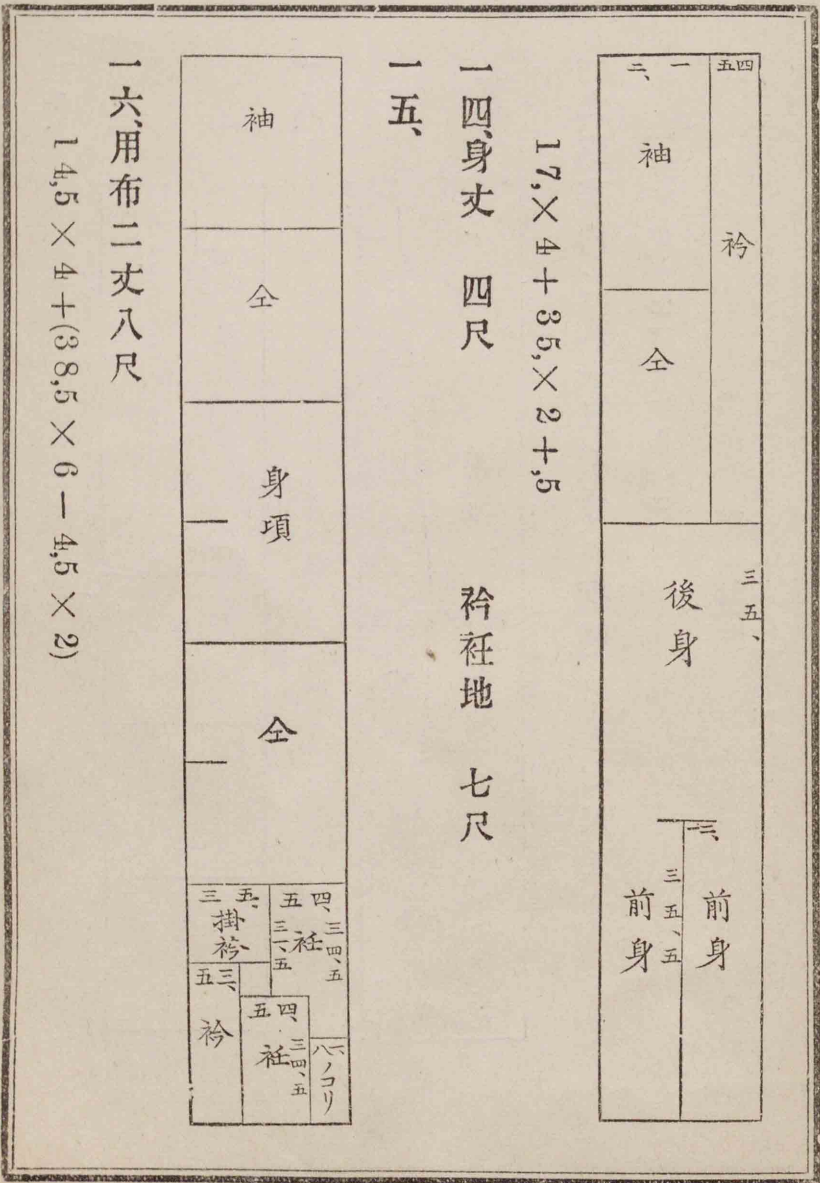
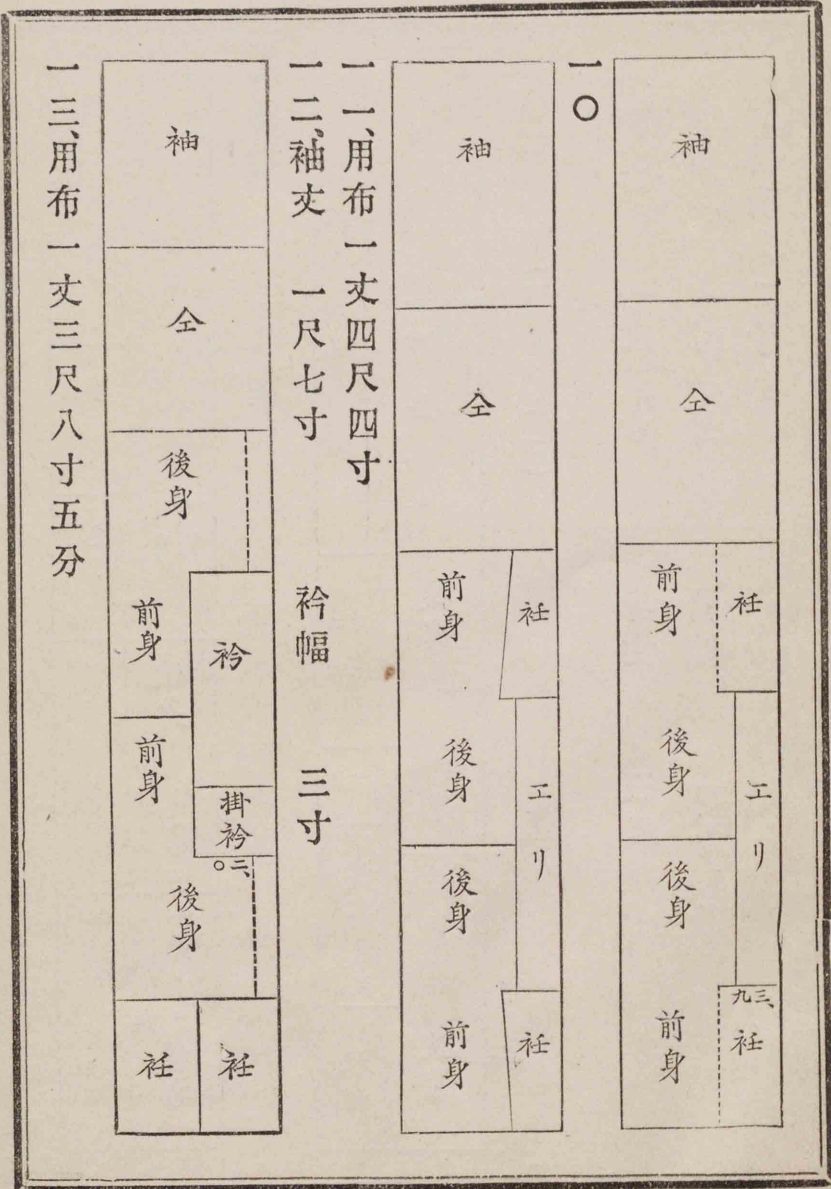


八身丈 二尺九寸

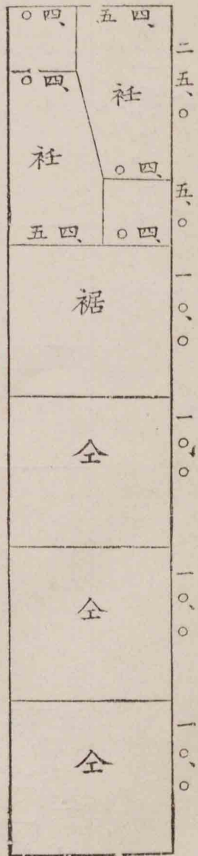


145, - (13, X 4 + 6.)  
 3

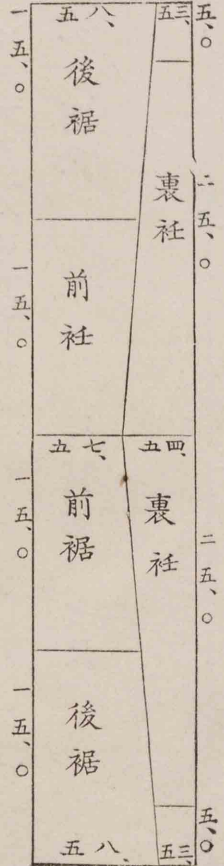
九袖丈 一尺五寸 身丈 三尺  
 後幅 七寸一分 衿幅 一寸九分  
 衿肩明 二寸



一七



一八

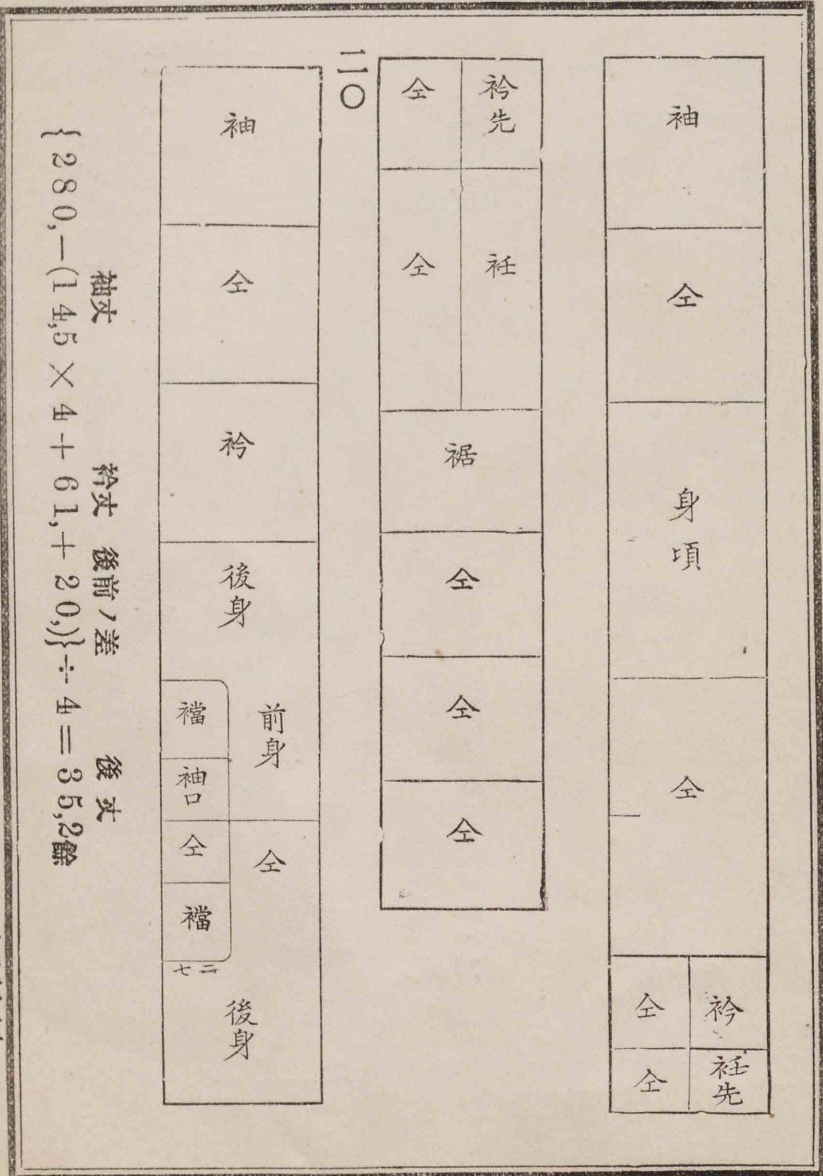


一九、胴裏地二丈一尺七寸 裾廻シ 七尺八寸

$12 \times 4 + 25 + 5 = 78.$

$\{ (15 + 40) \times 4 + 60 + 5 + 10 \} - 78 = 217.$

袴衤地 襦 縫代



二〇

袖丈 袖丈 袴丈 前後ノ差 後丈

$\{ 280, - (14,5 \times 4 + 61, + 20) \} \div 4 = 35,2$ 餘



前丈 85,2 + 1,0 = 45.2餘  
二一、一丈一尺七寸

袖	前身	後身
全	全	全
後身	襠先 ノコリ	襠先 七二
後身		

袷肩廻前下リ縫代  
(16, X 8 + 25,5 X 10 + 6, + 6, + 12,) - 290, = 117.

裁縫教科書上卷終

明明明明  
治治治治  
四三三三  
十十十十  
一五五三  
年年年年  
五六月十  
月月月月  
十三十日  
日日日日  
卅五五發  
一版版印  
版印發  
刷發行  
行行行

(裁縫教科書上卷)  
定價 上卷金三十五錢  
下卷金五十錢

著者 谷田部 順  
東京市本郷區向岡彌生町二番地

發行者 目黑 甚七  
東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地

發行兼印刷者 河出 靜一郎  
東京市日本橋區通三丁目十番地

印刷所 愛善社  
東京市神田區小川町一番地

明治三十五年七月廿二日  
文部省檢定濟

不許複製

販賣所

東京市神田區南乘物町九、拾番地

明治圖書株式會社

電話本局八九二番 本局一六四番  
振替貯金口座 四九一五番

N. Fujii

n